

研究指導 森 文雄 教授

ヘルス・ツーリズムを中心とした中山間地域の活性化について

ー多様な地域資源を活用したツーリズムの実現に向けてー

尾又 朝子 酒井 まどか 伊藤 百合恵 河村 智恵子

小針 優奈 畠山 晶子 本保 忠幸 渡辺 あかり

はじめに

1. 研究動機

中山間地域は、全国土の7割程度の面積を占め、総人口の約14%（東北では27%）が生活する地域である。農業生産額、農家数、農地面積では、全国の約4割を占め、我が国の農業・農村の中で重要な地位を占めている¹。また、田んぼや畑、農村のまわりの自然は、洪水や土壌浸食等を防止、水源涵養²、保健休養機能を持つなど、多面的機能を持っている。さらには、歴史や伝統文化を多く残しており、人々にやすらぎと憩いの場を提供している。しかしながら、現在では「条件不利地域」と表現されるように、過疎化・高齢化が急速に進行し、集落機能の低下が強く懸念されている。

昨年の研究で、中山間地域、とくに只見川流域4町村の現状と問題点について取り上げた。森ゼミとして提案するヘルス、グリーン、エコの新しい3つのツーリズム形態のうち、グリーン・ツーリズムについては、高齢化により中核農家³が少ないため実施は厳しい状況にある。しかし、金山町を中心とした只見川流域四町村には、幸いにして温泉資源、自然資源が豊富にある。以上の点から、ヘルス・ツーリズムという新しいツーリズムの形態での活性化が四町村の活性化プランとして最適であると考えた。昨年の時点では、四町村に適したヘルス・ツーリズムの展開についての準備的基礎研究を行ったので、その前年度の研究を引き継いで今年度は具体的なプランを考えて、地域に実践的に提案することが私たちの課題である。

近年では、旅行のスタイルが変化し、従来の通過型・団体型・短期型の観光から、訪れる地域の自然・生活文化・人との触れ合いを求める交流型・個人型・長期型のニューツーリズムへと転換している。リゾートブームや大型観光を前提とした観光地の凋落ぶりがそれらの動向を反映している。また、昨年からは始まった団塊世代の大量退職などを期に、田舎を取り上げたテレビ番組が多くなり二地域居住⁴や田舎暮らしに関心が高まっている。そこで、私達は、旅行スタイルの変化の動向を受けて、団塊世代を対象に、中山間地域の活用が進んでいない地域資源を活かして地域活性化が図れないかと考えて、ヘルス・ツーリズムを中心として研究を進めた。

2. 研究目的

昨年度の研究テーマは「只見川流域4町村の地域資源を活かした活性化モデル」だったが、その研究を引き継ぎ、ヘルス・ツーリズムという新しいツーリズムの形態での只見川流域4町村の活性化プランを具体的に調査・研究し、提案することとした。昨年度の研究ではヘルス・ツーリズムが四町村の活性化プランとして最適であるという考えに至り、今年度はその基礎研究を土台として実践的提案を行った。その方法として、福島県会津地方振興局と会津大学短期大学部地域活性化センター共催で、

¹ 平成12年国勢調査による

² 森林土壌が雨水を吸収することで、棚田の高低差を利用して下流域へと流れる水量を調整するだけでなく、水質を適度にする機能。

³ 60歳未満で年間150日以上農家に従事者がいる農家。

⁴ 都会と農山漁村の両方に生活拠点を持つことで、都市住民が年間の1カ月以上を地方の農山漁村などに滞在する新たな生活様式である。国土交通省は、2005年は100万人程度と見込んでいるが、団塊世代の一斉退職などで2030年には1080万人に増える可能性があると推計している。

9月上旬に金山町・三島町・昭和村・柳津町でのヘルス・ツーリズム・モニターツアーを実施した。最終的にはエコ・ツーリズムとグリーン・ツーリズムも取り入れた持続可能なツーリズムを展開し、地域の活性化につなげることを目的としている。

3. 研究方法

本研究では文献研究だけでなく、その地域に実際に現地調査に行くことにより、その地域が抱える問題の深刻さを近くで感じ、より強い問題意識を持つことを目指した。地域外の人による調査では限界があり、地域の協力がなければ本研究は成り立たなかった。また、地域の抱える問題には共通性があり、文献による抽象的な研究ではなく現地に入り具体的に問題について考察したので、問題意識が明白になった。よって、この経験が他の地域の問題解決にも参考になると思われる。また私達は過疎化の進行や中山間地域の現状をよく知ることで、研究対象となっている地域に適した活性化プランが提案できると考えた。

中山間地域は高齢者が多く、人口減少が続き過疎化が急速に進行している地域であると同時に、交通アクセスの利便性にも恵まれていないので、外部から企業を誘致して地域を活性化させる外発的発展に取り組むことは困難である。よって、地域の資源を多面的に活用することにより、地域経済の活性化に取り組む内発的発展のほうがより現実的な手段である。本研究はその内発的発展に沿うものである。

(1)研究の手順と調査方法

<1年次>

- ・地域活性化に関する文献研究
- ・若者ワーキング・ホリデー事業に参加(8,9月)
8月下旬～9月 2泊3日で会津若松市、会津坂下町の農家に滞在し、農作業体験や意見交換を通じて、会津地域のグリーン・ツーリズムの現状を調査。
- ・金山町現地発表会の手伝い

<2年次>

- ・中山間地域活性化に関する文献研究(4～8月)
- ・ツーリズムに関する文献研究(4～8月)
- ・柳津町、西会津町、喜多方市山都地区、喜多方市高郷地区、喜多方市熱塩加納地区現地調査(8月)
8～11月 役場職員の案内のもと、上記の場所を視察し、各所にて聞き取り調査・景観調査を実施。
- ・三大学合同ゼミ合宿の準備と発表(6～8月)
- ・奥会津にてヘルス・ツーリズムのモニターツアーの実施(9月)
9月4～6日 参加者のアンケートや意見交換を通じて、ヘルス・ツーリズムの長期滞在型のプラン作りを基礎とした町村それぞれのヘルス・ツーリズムのスタイルを築き上げることを目的として実施した。
- ・卒業研究中間発表(11月)
- ・卒業研究発表(2月)

(2) 各学問のアプローチと本研究との関連性

今回の卒業研究で用いたアプローチと本研究との関連性については以下の通りである。

a)地域経営学

「地域経営」の目的とは地域のゴーイングコンサーンを確保すること、いいかえれば地域の持続可能性を実現することである。地域活性化はその手段である。そのために地域における人的、物的および自然資源を最適に組み合わせ活用する方法を研究する。

本研究では、持続可能な地域社会をつくるために地域活性化を目指した。その方法として交流人口の増加による経済効果を狙い、魅力あるニューツーリズムのメニュー作りを行った。すなわち人的資源は地域の人たちの能力、物的および文化的資源としてはスキー場や廃校になった小学校、歌舞伎、昔語りなど、自然資源は湖や山、川などがあり、それらが地域経営における経営資源となる。

b)地域経済学

対象を産業活動だけに限らず、住民の生活や、地域づくりの領域にまで拡張し、現代の社会や経済を分析して、そこに働いている法則性を発見し、よりよい未来社会への展望を示す。

本研究では、短大内の他の学科やコースや会津地方振興局、旅行代理店などと連携して活動を行った。様々な地域資源や地域の要素に対し、多方面の組織やアプローチ方法を用い、結果的に地域活性化が実現されることを目的とした。

c)観光社会学

観光(人が「移動」すること)が、地域社会の持続可能性を実現するために地域にどのような影響を与えるかを解明し、問題点の解決を図り、持続可能な観光社会を目指す。

本研究では、現地調査などで地域の実態を研究し、その地域にある地域資源を活かしたツーリズムを提案し、観光の持続可能性、地域社会の持続可能性、二地域居住などが期待できる持続可能なツーリズムの展開を目指した。

d)農業経済学

農業経済とは食料や農業の経済的・環境的問題を、経済学、社会学、政治学、法学などの社会科学を用いて分析し、その時々潮流に合った仕組みを模索する事を目的としている。また農学とも密接な関係にあり、諸問題を通じて自然と調和した循環型ライフサイクルの創造を手助けする役目も担っている。

本研究では、食を取り巻く環境の本来あるべき姿を農山村集落に求め、そこで体験を通じて、中山間地域が担っている重要な役割を参加者に理解してもらおうグリーン・ツーリズムも含まれる提案を行った。また地域の特産物として確かな食料に関心が寄せられることは、長期的な視点での地産地消促進や食糧自給率の改善に繋げることも目的としている。

e)環境学

環境学とは自然環境、社会環境、都市環境など、人間の生活を取り巻く環境とその人間、動植物への影響について研究を行う。環境問題に対して将来を予測しつつ総合的な対策を提案することを目的としている。

本研究では、環境保護と観光の両立に着目し、学習的・体験的な要素を持ち合わせた奥会津のエコ・ツーリズムを通して、環境に負荷を与えることなく観光地として地域を発展させる方法や、整備することで環境を守っていく方法を提案する。

4. 調査地域の現状

調査地域の活性化モデルを提案するためには、それぞれの地域についての現状を知ることが重要である。そこで、下の図表は、調査地域の人口、高齢化率、さらに分配所得においては一人当たり県民所得と比較したものである。

図表：調査地域人口、高齢化率、分配所得比較

人口	昭和村		金山町		三島町		柳津町		西会津町	
	1987年	2006年	1987年	2006年	1987年	2006年	1987年	2006年	1987年	2006年
	2,274	1,622 (-28.7)	4,117	2,815 (-31.6)	3,168	2,242 (-29.2)	5,402	4,240 (-21.5)	10,388	8,196 (-21.1)
高齢化率	1997年	2006年	1997年	2006年	1997年	2006年	1997年	2006年	1997年	2006年
	41.2	53.9(+12.7)	41.2	52.5(+11.3)	35.6	44.7(+9.1)	29.6	37.3(+7.7)	32.6	40.1(+7.5)
分配所得	2004年度		2004年度		2004年度		2004年度		2004年度	
	1,735(65.2)		1,960(73.6)		2,027(76.1)		1,902(71.5)		2,008(75.4)	

人口	喜多方市 山都地区		喜多方市 高郷地区		喜多方市 熱塩加納地区		一人当たり 県民所得
	1987年	2006年	1987年	2006年	1987年	2006年	
	5,107	4,046(-20.8)	2,876	2,316(-19.5)	4,282	3,240(-24.3)	—
高齢化率	1997年	2006年	1997年	2006年	1997年	2006年	—
	31.7	39.0(+7.3)	28.6	34.5(+5.9)	28.8	33.4(+4.6)	
分配所得	2004年度		2004年度		2004年度		2004年度
	1,780(66.9)		2,095(78.7)		1,839(69.1)		2,662(100.0)

※一人当たり分配所得の単位：千円

資料：「福島県市町村民所得推計」、長寿社会開発センター平成10年度版 老人保健福祉マップ

調査地域の共通点は、中山間地域に位置し、人口は若者の流出と出生数の減少が主な原因となって、ピーク時から半減な

いは3割程度にまで大幅に減少していることである。また人口減少に伴い、高齢化は深刻な状況にあり、10年で約10%上昇している。現在も人口の減少、高齢化の加速に悩まされている。特に、昭和村、金山町の高齢化率は平成19年に50%を越え、それぞれ県内の1位2位となっている。また、人口減少率が最も大きいのは31.6%減の金山町で、高齢化の増加率は昭和村が一番大きい。県民所得の比較においても、昭和村が県平均の約6割程度で最も低い。他の地域も県民所得の約7~8割とかなり所得が低いことがわかる。平成18年に喜多方市、塩川町と合併した、喜多方市山都地区、高郷地区、熱塩加納地区は、新しい喜多方市の合併特例区⁵の一つとなった。

第1章 ツーリズム

1. 定義

(1) ツーリズム

大正時代に英語の「ツーリズム」の訳語として「観光」を当てた。しかし、昨今日本で使われているツーリズムは、観光を表しているとは限らない。レジャー(娯楽)から、移動を伴うタイプ、移動を伴わないタイプに分けることができる。移動を伴うタイプでは、観光レクリエーション(楽しむための旅行)と友人・知人・親戚訪問などがある。さらに観光レクリエーションから、観光とレクリエーションに分ける。観光は、自然の風景、歴史的文化財などを「見る」行為をいい、レクリエーションは、スポーツなどをして「遊ぶ」行為をいう。レジャーの移動を伴うタイプから、様々なタイプを含め、ツーリズムと定義する。

観光とツーリズムの主な違いは、観光は、その土地の良いところを観て学ぶ、短期滞在型の旅行であること、ツーリズムは、体験学習のできる長期滞在型の旅行であるということである。観て学ぶだけでなく、周遊がより多く入った長期の旅行をツーリズムと表している。したがって、ツーリズムとは新しいタイプの観光ともとらえることができる。

(2) ヘルス・ツーリズム

ヘルス・ツーリズムとは、観光学の分野では健康増進や維持回復を主たる目的とした観光と考えられている。つまり健康保養型観光といえる。健康という分野と、非日常性とその土地の素晴らしいところを観るといふ観光の分野とを満たす概念がヘルス・ツーリズムであり、例として温泉療法、伝統料理、ウォーキング、歴史・文化、医療が挙げられる。また、ヘルス・ツーリズムの日本語訳は健康観光、保健観光、健康保養型観光など様々である。ヘルス・ツーリズムの形態は、医療・治療を目的とした旅行から健康増進・スポーツを目的とした旅行まで、主に5つの形態に分類される。

(3) エコ・ツーリズム

エコ・ツーリズムの定義は、自然保護運動に関わる人、生物学者、旅行業者などによって大きく異なっている。そもそも、エコ・ツーリズムの考えは広いカテゴリーを含むので、定義の仕方も定義する主体によって異なり、それぞれ意味が付与されている。それらは、大きくは自然を強調した定義と観光を強調した定義に分けることができる。自然を強調した定義は、環境保全・学習が強く楽しみの要素が多く、観光を強調する定義は、楽しみながら環境学習をする、楽しみの要素が多い。今後は、これらをバランスよく構築したツーリズムとすることが求められる。

また、WTO⁶ではエコ・ツーリズムのあり方を、①自然のエコロジカルな循環を維持し、自然遺産や生物多様性の保護に努める、②観光地の文化遺産や伝統的な価値観を尊重し、相互理解に寄与する、③地元の人々に対して長期にわたって安定した雇用や収入、社会的サービスを提供することなどを通じて、観光地の持続的な経済発展を保証する、と定義している。

(4) グリーン・ツーリズム

グリーン・ツーリズムとは、主に都市部の住民が農山漁村地域に滞在し、その地域に息づく自然や文化、人々との交流といった要素を実際に体験・体感して過ごす余暇活動と定義されている。従来の物的な豊かさから、精神的な豊かさを求める傾向

⁵ 合併市町村がスムーズに一体化を図るために設置される、法人格をもった特別地方公共団体。

⁶ 世界旅行機構(World Tour Organization)

が顕著となり、実際に見たり触れたりして確かな存在を求める欲求が、自然豊かな中山間地域に向けられる様になった。こうした風潮の中、中山間地域ではグリーン・ツーリズムによる地域振興策を望む声が挙がる一方で、受け入れ態勢が十分に整っていない等の課題もあるので、福島県では平場の大規模中核農家を中心に行われているのが現状である。

2. 望ましい展開方向

(1)各ツーリズムとの連携

ヘルス・ツーリズムを柱として、グリーン・ツーリズム、エコ・ツーリズムとの関連性を強めたツーリズムを提案する。グリーン・ツーリズムとの連携では、棚田オーナー制度との接続によるツーリズムメニューの充実を図る。具体的には、ヘルス・ツーリズムの観点からは、農作業体験を通じて青少年食育の推進やオーナーの健康維持の効果を望むことができる。エコ・ツーリズムとの連携では、地域資源を活かした体験型エコツアーを取り入れたメニューの充実を図る。具体的には、参加者への精神的安定効果や精神活性化効果を望むことができる。以上のことから3つのツーリズムは、健康をキーワードとして密接な関連性があるので、それらを組み合わせることによってシナジー効果が発揮され、新たなツーリズムの展開が可能となる。

(2)近隣地域との連携

単独地域でのツーリズムには限界がある。地域資源などからみても、四季折々のツーリズムを提案することが難しい地域もあるのが現状である。しかし近隣地域と連携することによって、ツーリズムメニューの幅が広がり、2泊3日以上長期滞在メニューの提案が可能となると考える。今後は自地域のみでなく、近隣地域との交流を図りながらツーリズムメニューの充実を目指すことが望ましい。

(3)“見る”だけでなく“体験”できる観光地へ

滞在時間を延長すること、また日帰りではなく、宿泊客を増加させるために、“見る”だけではなく、自然や文化、実生活が“体験”できる滞在型観光地としていくことが理想である。従来の“見る”観光に体験要素が入ることで、地域の人々との交流が増え、知的欲求や探究心に対する満足度が高まる。これらのことから、体験型旅行を望む観光客が増え続けている。また、以前より休暇が長くとれるので、体験のできる長期滞在型の旅行が可能になったことも体験型観光が増えた要因である。

(4)利用に関するルール作りを地域で行い、地域イメージの向上へ

エコ・ツーリズムの推進には利用に関するルールが必要になってくる。利用に関するルールはその地域の自然環境や文化、その時々状況に応じて常に進化する必要がある。意味があり、即座に対応できるルールは、その地域に住んでいる人でなくてはできない。そこで地域でルール作りをすることができる仕組みが必要になってくる。また、ルール作りは自分たちが向かうべき方向性や問題点がはっきりと見えているからこそできることである。地元での話し合いを繰り返し、基本的な考え方を共有し、地域のイメージアップへつなげていくことが望ましい。

(5)エコツアーガイドの養成・確保の必要性

近年、エコツアーが脚光を浴び、地域振興策としてエコ・ツーリズムの普及が国内各地で進められている。それに伴い、ガイドの需要は非常に大きくなりつつあり、今後さらに増していくものと予想される。このような状況に対応するため、関係機関・団体は協力して、公式のエコツアーガイドの養成システム及び地域ごとの資格認定制度の創設を行う必要がある。

(6)規制緩和

日本でグリーン・ツーリズムを発展・普及させていくためには多くの課題がある。現在は様々な制度による規制があるために実践は困難である。制度の規制緩和や充実を図り、グリーン・ツーリズムが普及しやすい環境作りが必要である。たとえば、農家民宿を始めようとする、食品衛生法、旅館業法、消防法、建築基準法などの様々な法律で厳しい制限が設けられている。とくに食品衛生法での規制が農家民宿にとってもっとも高い壁であり、県条例の制定による適用除外をすることによって農家民宿の規制緩和を行う必要がある。

(7)訪問者と受け入れ地域との関係性の確保

他地域や他団体との連携により、システムの充実や改善が可能となる。民泊施設の充実やグリーン・ツーリズムに必要な意

識や知識の向上を図り、各戸の個性やメニューに多様性を持たせることが魅力作りになる。そこから転じてリピーター確保につながり地域活性化、人口増加、後継者確保が可能になる。グリーン・ツーリズムにおいては訪問者と受け入れ先の関連性も重要である。客として特別に扱うのではなく農家そのものの姿を見ってもらうこと、さらに、親しみのある交流に努めることによって都市部では得られない関係性の形成による人間性の回復が期待できる。

3. 期待される効果

(1)マス・ツーリズムでは伝わらない地域の良さを伝えることができる

ここでいうマス・ツーリズムとは、従来のように観光バスなどを使い、大勢の観光客を案内する観光のことである。そうした観光は、ガイド1人につき、大勢の観光客を案内する形態をとる。そうではなく、少人数の観光客を案内する形態をとることで、自然や地域住民の暮らしに悪影響を与えないように配慮しながら、地域の良さを伝えることが可能である。また、消費の多様化や市場の細分化といったマーケティング戦略の側面からも少人数でのツアーが望ましい。

(2)地域の自然や文化を保全しつつ、収入を得ることができる

自然や住民の暮らしに影響を与えないように配慮し、自然や地域文化の保全に役立つ“自然に配慮した旅行”のため、収入はその地域に還元することを目的としている。例えばグリーン・ツーリズムを実施すると、もてなしの料金として収入が実施地域に入る。そして、その収入を保全に使うことができる。このように、集落の持続可能性を保証するものとしてツーリズムから得られる一定の収入が役に立つ。しかし、その効果はすぐに現れるものではなく、長い期間を経て徐々に成果がでるものである。ツーリズムが地域に定着し雇用が安定的に確保できるようになれば、若年層の定住を図ると同時に、高齢化の歯止めにもなる。

(3)地域の特性を活かしたまちづくりができる

旅行者に地域の良さを体感してもらうことによって、地元住民自身も、自分の地域の良さを見直すことができ、誇りや自信が持てるようになる。そして地元住民が自分の住む町や村に自信と誇りを持ち、その地域の特性を活かしたまちづくりやむらづくりが可能になる。その場合、地域特性を十分に分析して、その土地ならではのまちづくりを目指すことが重要なポイントとなる。

第2章 モニターツアー

1. モニターツアーの実施概要および実施地域の選定理由

会津地方の地域資源(温泉、伝統的食文化、自然、伝統文化など)を活用したヘルス・ツーリズムとしての滞在プログラムを開発するために、昨年の9月4～6日に2泊3日でヘルス・ツーリズム・モニターツアーが奥会津(金山町、三島町、昭和村)で実験的に行われた。このモニターツアーは福島県の地域振興のための支援事業「会津の宝活用事業」の一環として、奥会津地域の市町村への集客・交流の活性化につなげるために行われたものである。『湯ったりしらんしょ、心温もる奥会津』をキャッチコピーに、福島県会津振興局と会津大学短期大学部地域活性化センター主催で東京から50～60代の男女を対象にモニターを募集した。募集の条件として、リタイアした、または近々リタイアを考えている人で健康に関心があること、こちらで提案したメニューへの参加と各種アンケート調査への協力等を提示した。

またツアー参加者に対して、栄養学、運動生理学、健康ウォーキング、メタボリックシンドローム⁷対策、森林浴およびエコツアー体験、温泉療養学について研修することによって、科学的・体験的に健康づくりについての理解を深める機会を提供した。また全日程において提供された食事は伝統料理を基本とした、低カロリーで減塩に留意したヘルシーメニューを中心に構成

⁷ 脂肪が内臓に蓄積して体内のバランスが崩れ、高血圧や高血糖、肥満といった要素が複数重なった状態のことである。一つひとつの症状は、たいしたことがなくても、相乗効果で脳卒中や心筋梗塞、糖尿病などの生活習慣病を引き起こすリスクが高まるといわれている。

した。

モニターツアーを行うにあたり、実施地域がなぜ奥会津4町村なのかということであるが、選定理由としてはまず豊富な地域資源を保有していることが挙げられる。金山町ならば、玉梨温泉・大塩温泉などの温泉資源、只見川や沼沢湖といった自然資源、山入り歌舞伎・金山漆ろうそくなどの伝統文化資源である。また、金山町を含む奥会津地方の町村では、地域によっては50%を超える深刻な高齢化率、加えて少子化、若者の都会への流出の増加と、危機的状況にさらされている。これは農業や伝統文化の継承者不足につながり、様々な産業に深刻な影響を与えていると考えられる。

このように豊富な地域資源を保有しつつも厳しい現状にさらされている地域である。しかし、何よりも健康保養型観光客、つまり今回のモニターツアーの参加者を受け入れられる地域力がまだ十分にあることから金山町、三島町、昭和村、柳津町を選定した。

2. 滞在メニューの内容

モニターツアーは、金山町・昭和村・三島町・柳津町の広域4町村で行われた。ツアーメニューのなかでは、体重・身長・腹囲・血圧・体脂肪率測定等の健康診断をすることで自身の健康について自己把握し、生活習慣病⁸などを未然に防ぐ効果がある。そして、健康・栄養学の講義と実習、只見川や沼沢湖周辺のエコツアー、ソバ打ち体験や健康作り学習から、参加者の学習ニーズの満足化を図ることを目的としている。また、適正カロリーの伝統料理を食すことで健康増進、さらにその地域の伝統文化を知ってもらうことにつながる。ただし伝統料理はしばし塩分が高いとされるため、その点に配慮する必要がある。同様に、山入り歌舞伎鑑賞や昔語りを聴くことから伝統文化を観光資源化する試みも取り入れてられている。ではその2泊3日の滞在メニューの内容を下表で紹介する。

表1 モニターツアー「湯ったりしらんしょ 心温もる奥会津」2泊3日の日程

	内容	備考
9月4日(火)	9:00 東武浅草駅出発 15:00 健康診断：体重、身長、腹囲、血圧、体脂肪率測定 15:50 講義：「メタボをいかに防ぐか」本学 安江俊二 教授 16:20 健康ウォーキング実習 本学 安江俊二 教授 18:00 玉梨温泉入浴 18:30 町の紹介：音と映像による風景、奥会津の宝紹介 20:40 昔語り	快速（直通） 保健師2人 雨天時：体育館 語り部（3人）
9月5日(水)	8:30 森林浴・エコツアー：沼沢湖畔～太郎部の森 11:00 ソバ打ち体験 13:20 フォーラム 講演：「温泉療養と健康について」 講師 上越教育大学 清水富弘 教授 15:30 只見川遊覧船エコツアー、柳津虚空蔵尊参詣（いずれかを選択） 16:30 つるの湯温泉入浴 19:40 山入り歌舞伎鑑賞	ボランティアガイド付き 講師（2人） 遊覧船（定員48人乗り）
9月6日(木)	8:45 健康チェック 9:30 玉梨豆腐茶屋 10:20 アンケート調査、意見交換会、昼食 13:00 田島駅到着 13:22 田島駅で解散式	保健師1人 昭和村からむし会館

⁸ 体の負担になる生活習慣を続けることによって引き起こされる病気の総称のことで、高血圧症や脳卒中、心臓病、糖尿病などが挙げられ、その原因には偏った食事や運動不足、ストレス等があるといわれている。

3. 学内および4町村との連携

(1)本学学内での連携

本学産業情報学科経営情報コース森ゼミは、モニターツアーの実施、及びツアー全日程に参加し、モニターへのアンケート調査を行い、現在、振興局に提出する報告書作成を行っている。短大内連携としては、産業情報学科デザイン情報コースではインテリアゼミが空き家を利用した二地域居住・交流人口拡大を増進する具体的コンテンツやデータベースを提供し、インターフェースゼミがインターネットを利用した動画による情報発信を行っている。また、当日においては食物栄養学科安江俊二教授が栄養学「メタボをいかに防ぐか」の講義と健康ウォーキングの実習等短大内での連携が行われた。

(2)エコ・ツーリズム、グリーン・ツーリズムとの連携

今回のモニターツアーはヘルス・ツーリズムの領域であるが、実際のメニューの中には他のツーリズムも含まれている。具体例を挙げるとメニュー2日目の森林浴や只見川遊覧船エコツアーはエコ・ツーリズムに、同日の昼食そば打ち体験はグリーン・ツーリズムに分類される。このように異なるツーリズムをメニューの中に取り込むことによって、参加者が3つのツーリズムを体験できるということが期待された。

(3)地域づくりとの連携

モニターツアーの実施が成功することによって、他地域の人が訪れるようになるため、地域の交流人口が増加する。それによって地域の自立意識が高まり、そこに住む人々が、さらなる地域の改善と二地域居住、定住へとつながるものと考えられる。例えば、地域環境保全への関心が高まればそれが景観の維持へ、地産地消への関心が高まるならば、地域雇用の拡大などの経済的発展へとつながる。

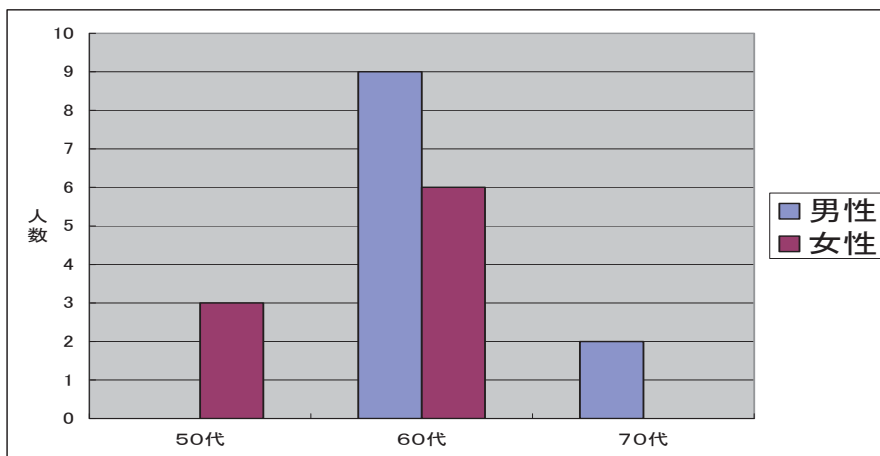
(4)4町村の地域間連携

今回のモニターツアーでは奥会津4町村が連携している。そのほとんどのメニューは金山町を中心に行われたが、近隣の昭和村・三島町・柳津町とも連携している。他町村と連携することで、それぞれの地域が持つ特性を活かしながら、地域資源の補完関係が形成され、より高いサービスを参加者に提供することができる。しかし、今回は金山町中心に行われたため、昭和村・三島町・柳津町ともに地域資源が豊富にありながらも、メニューに取り込むことが不十分であったという課題が残された。

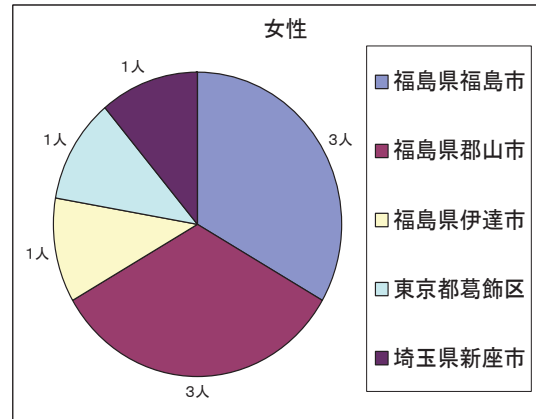
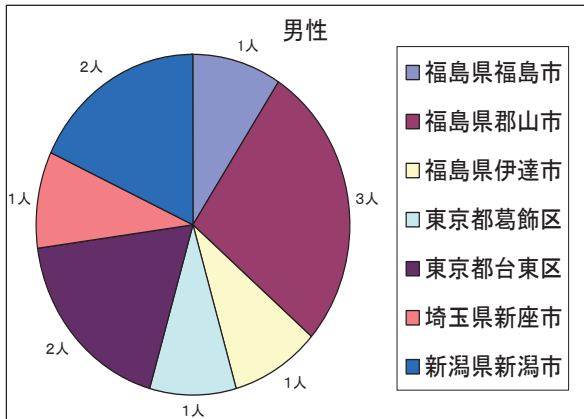
4. アンケート調査結果

(1)参加者のプロフィール

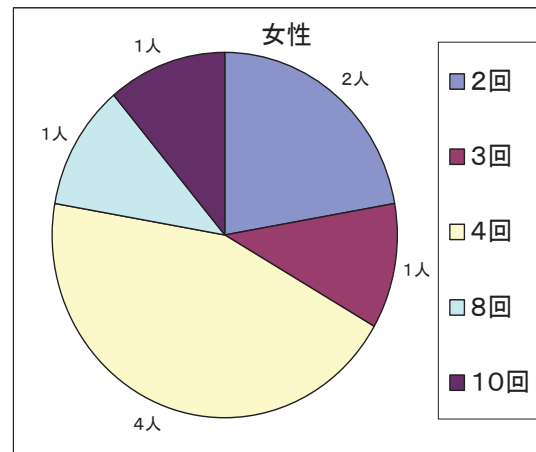
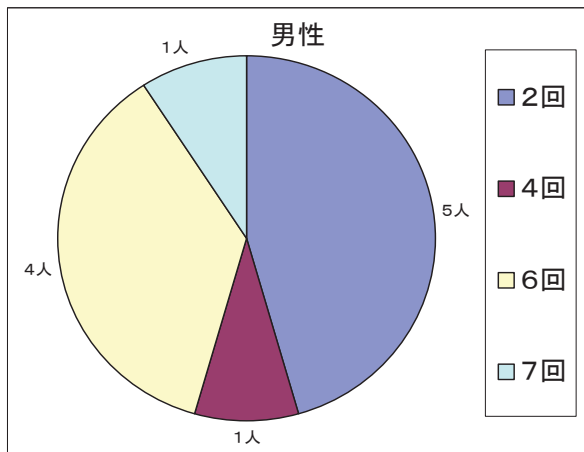
<年齢別性別>



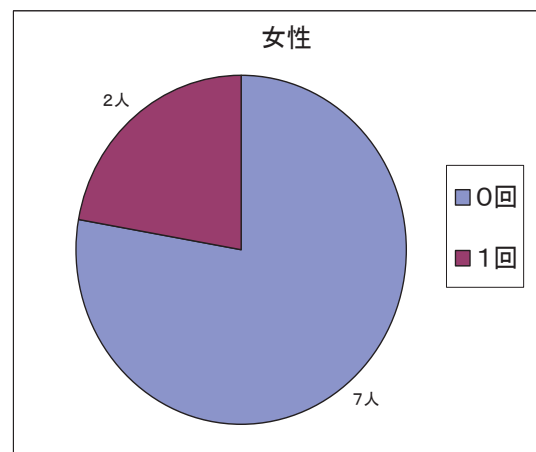
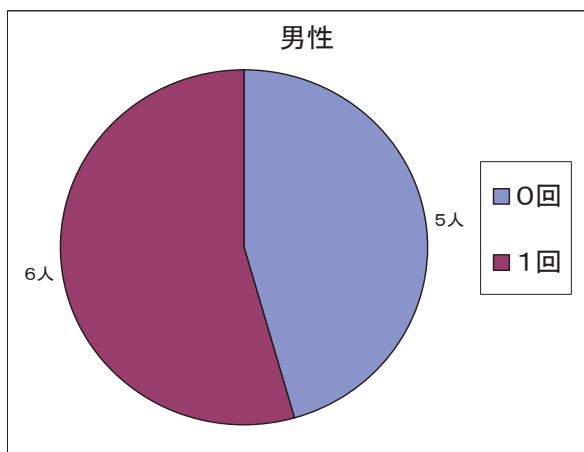
<出発地>



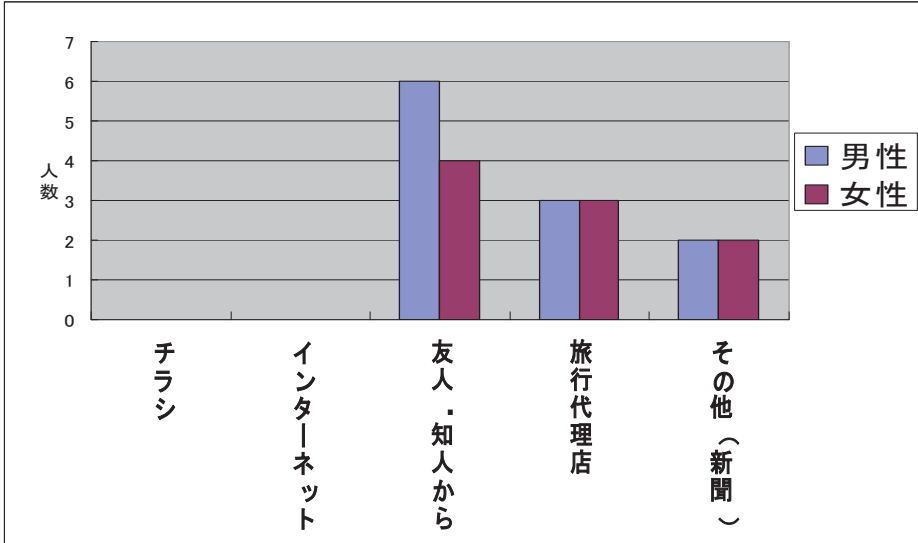
<年間の国内旅行回数>



<年間の海外旅行回数>

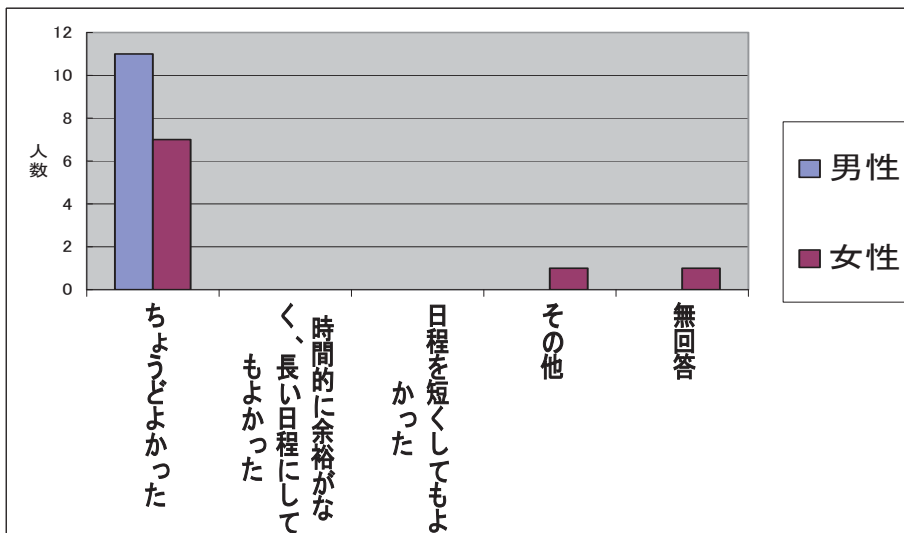


<今回のモニターツアーを知ったきっかけは何ですか>

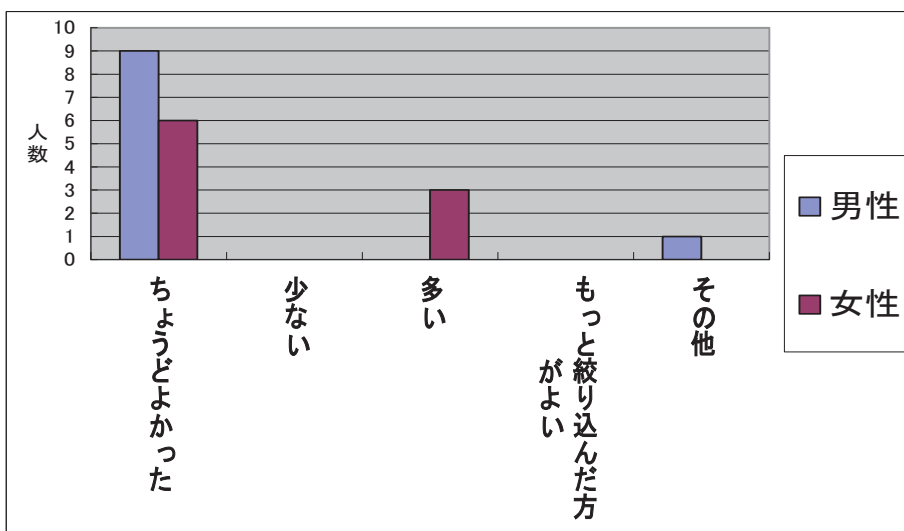


(2)日程と内容について

<日程>



<内容>

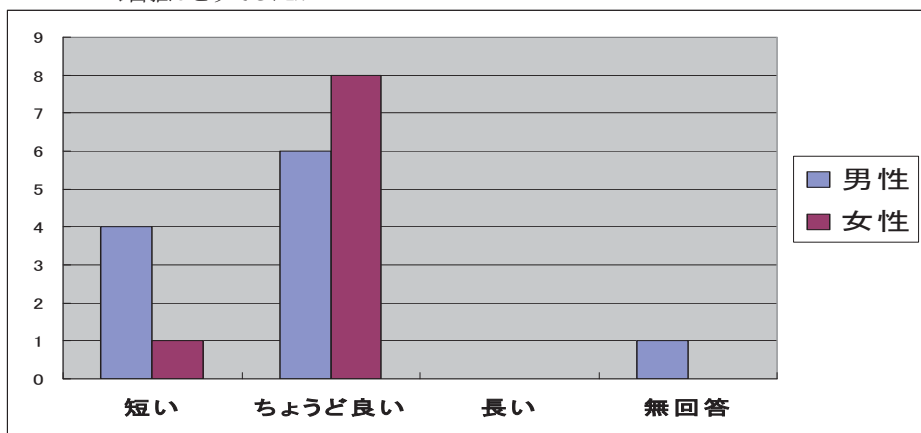


(3) 今回のモニターツアーで、印象に残ったもの・楽しかったもの(○)、改善が必要なもの(△)、不要なもの(×)は何ですか。

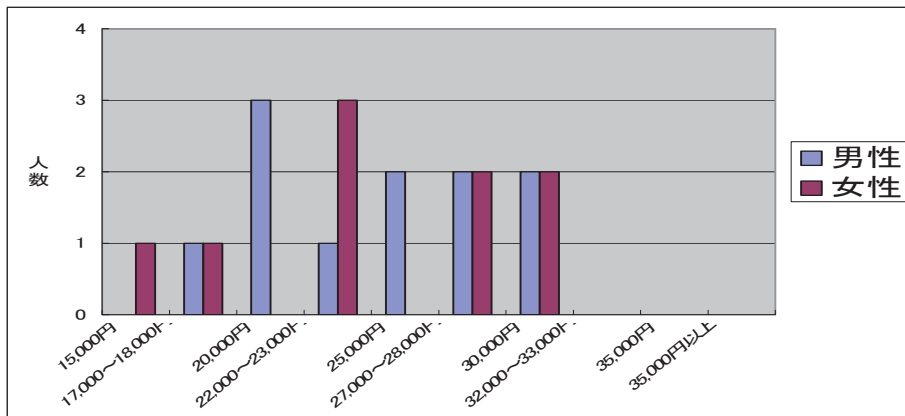
	男性				女性			
	○	△	×	無回答	○	△	×	無回答
健康チェック	10	1	0	0	9	0	0	0
講義	11	0	0	0	7	1	0	1
健康ウォーキング	10	1	0	0	7	2	0	0
奥会津の宝紹介	6	4	1	0	8	0	1	0
昔語り	10	1	0	0	8	1	0	0
森林浴エコツアー	10	1	0	0	8	1	0	0
ソバ打ち体験	11	0	0	0	9	0	0	0
フォーラム	4	0	0	7	3	1	1	1
柳津虚空像尊見学	6	1	1	3	3	0	0	0
食事	11	0	0	0	9	0	0	0
恵比寿屋旅館入浴	11	0	0	0	8	1	0	0
只見川遊覧エコツアー	8	3	0	0	8	0	1	0
つるの湯入浴	10	1	0	0	8	0	1	0
山入り歌舞伎	9	0	0	2	8	1	0	0
玉梨豆腐茶屋	2	7	1	1	3	5	0	1
からむし織りの里	5	2	0	4	4	0	0	5

(4) 森林エコツアー(沼沢湖畔～太郎布の森)についての感想・気になった点を教えてください。

<4 kmの距離はどうか>

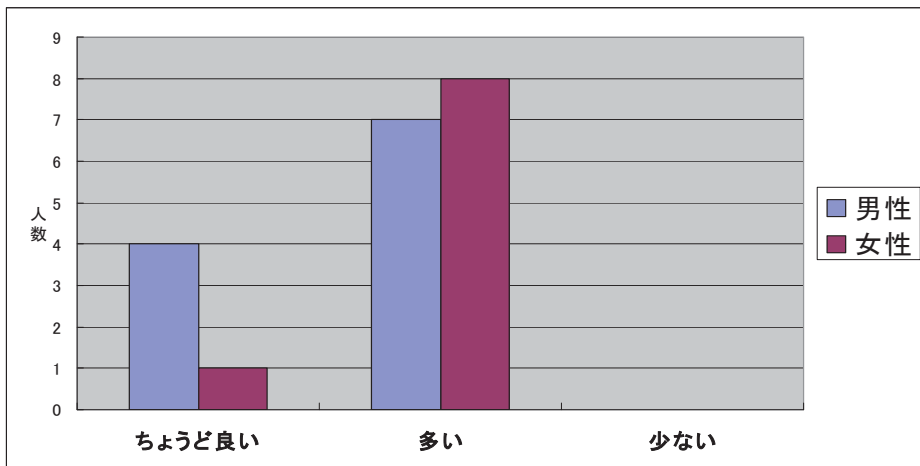


(5) 今回のツアーが交通費を除いて全額自己負担だとしたら、どの程度が望ましいと思いますか。

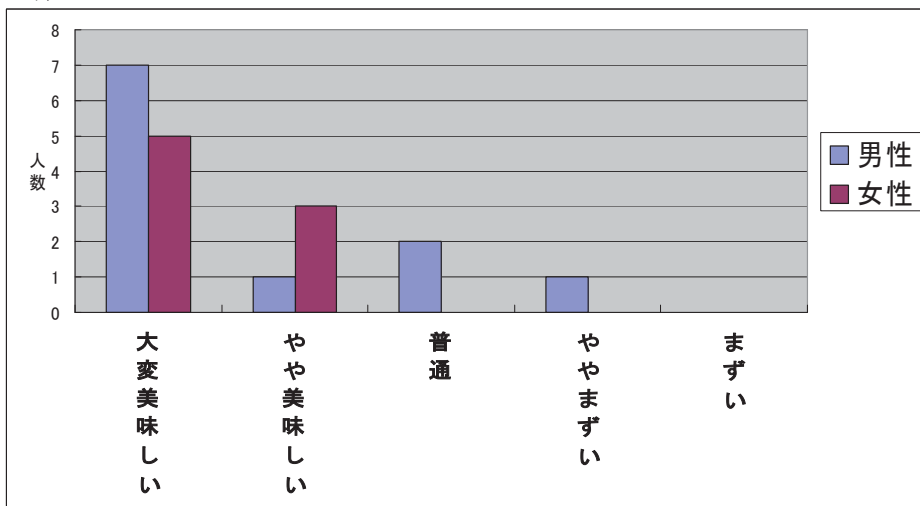


(6)食事について

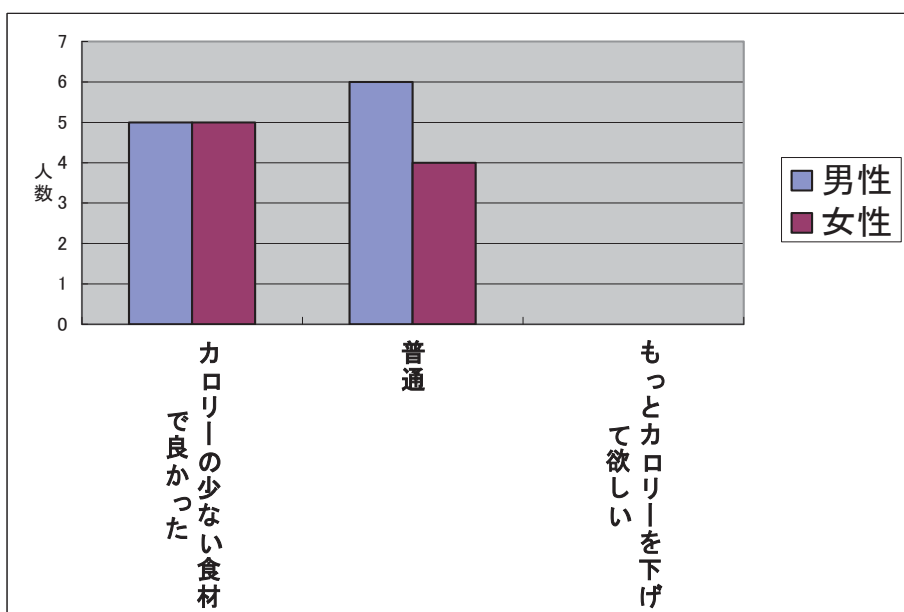
<ボリューム>



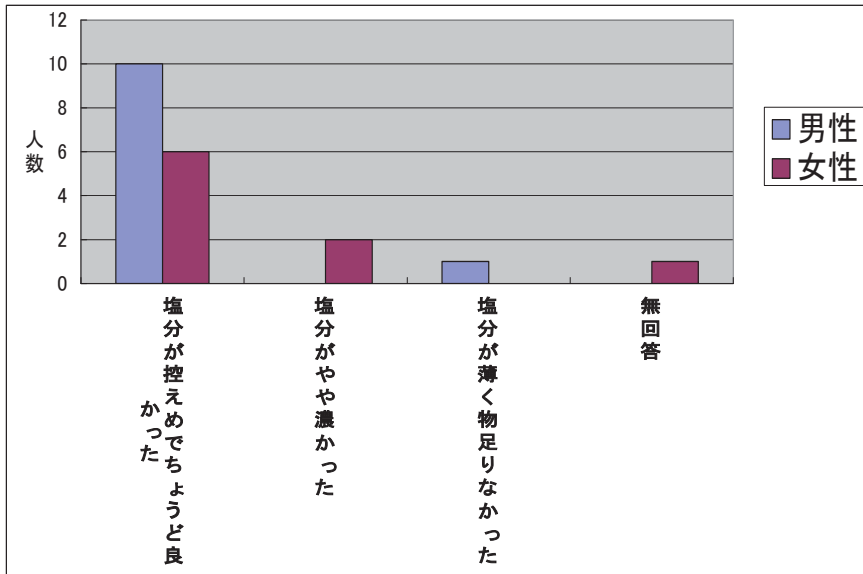
<味>



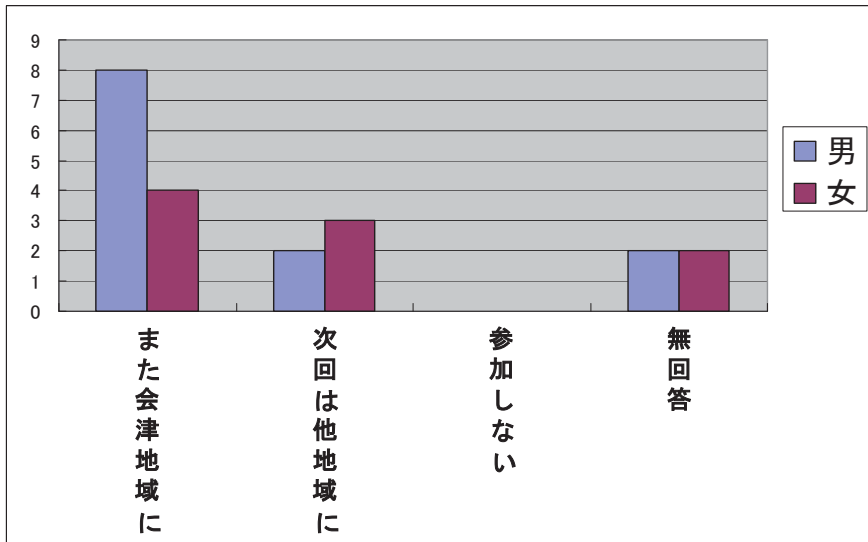
<カロリー>



<塩分>

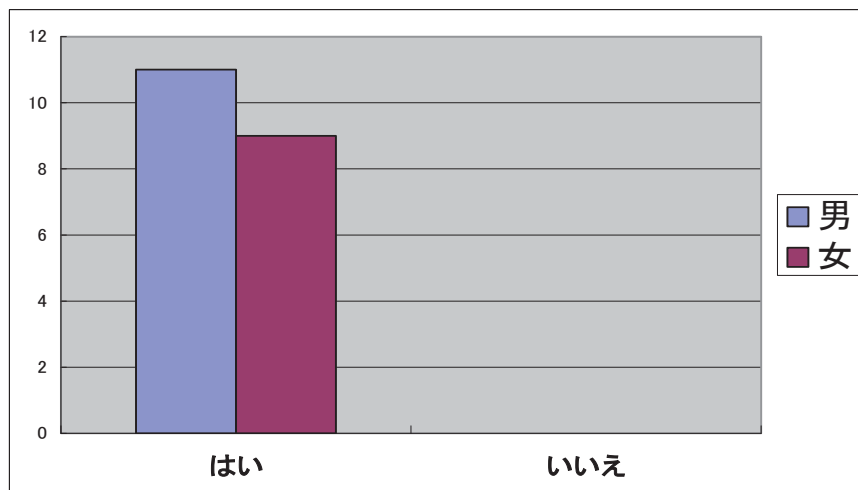


(7)またこのようなツアーに参加したいと思いましたか。

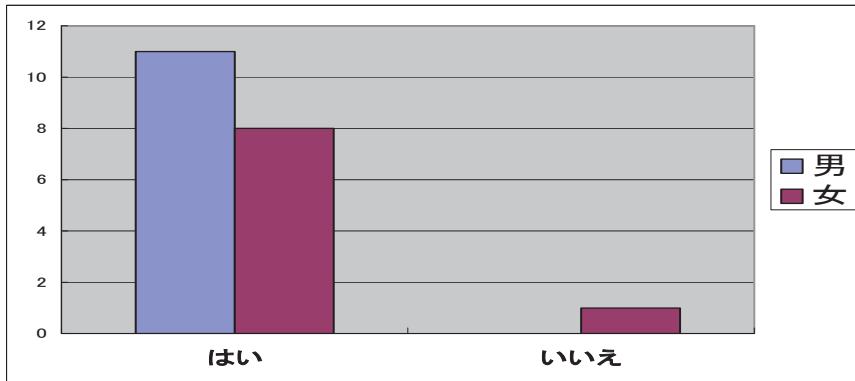


(8)今回のツーリズムに参加して

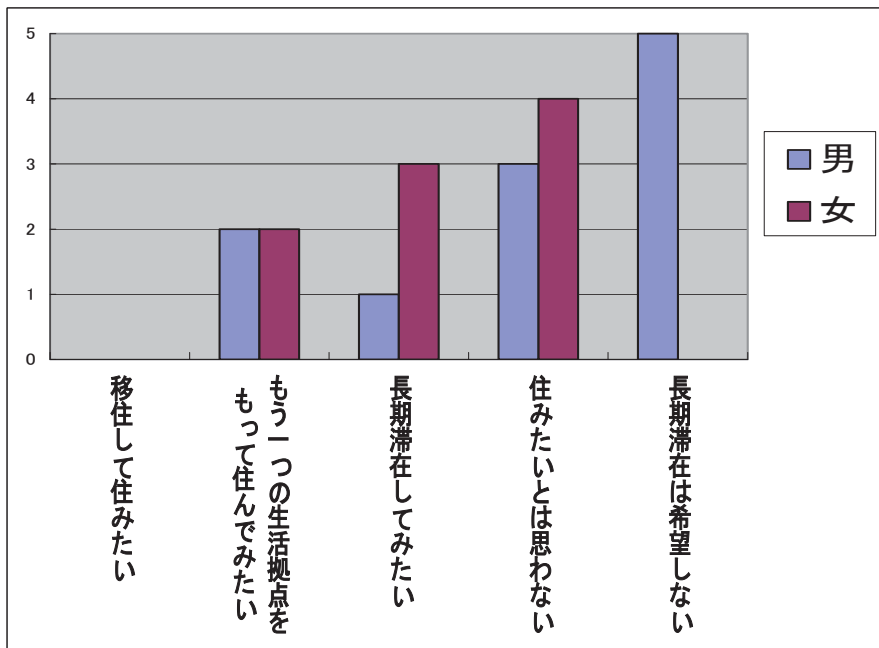
「健康」に関する関心は高まりましたか。



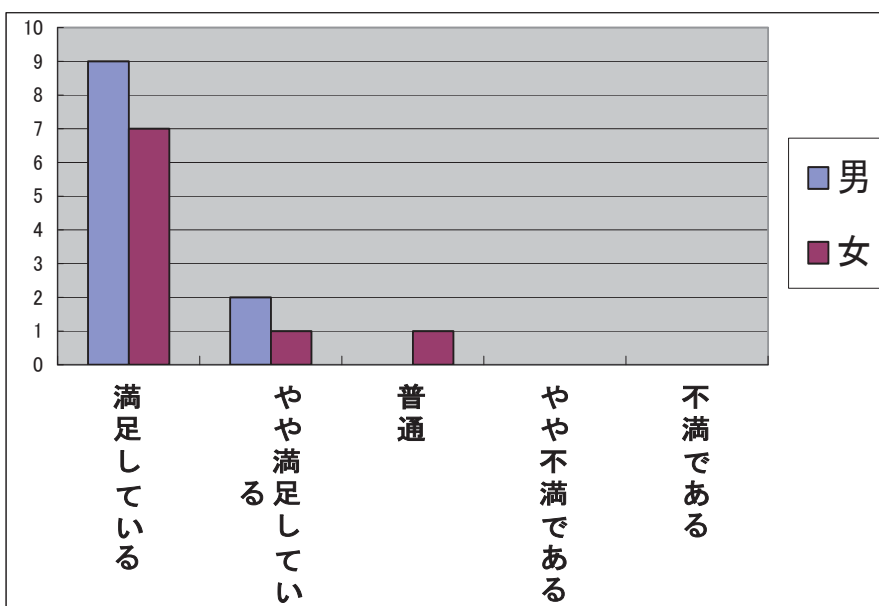
「会津地方」あるいは「田舎」に関する関心は高まりましたか。



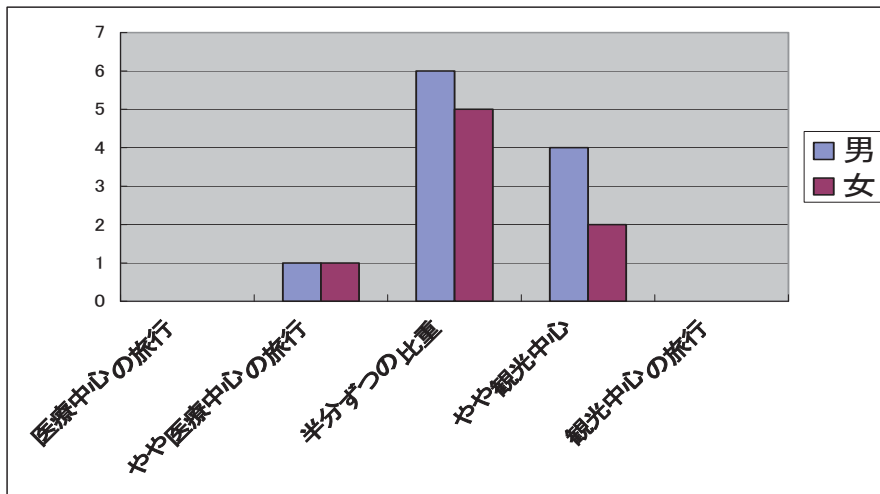
「会津地方」や「田舎」に住むか長期滞在したいですか。



(9) ツアーに対する満足度について



(10)あなたはヘルス・ツーリズムにおいて、どんな傾向(医療または観光のどちらに重点を置いた)の旅行を考えていますか。



5. モニターツアーの考察

今年度の平成19年9月4日(火)～9月6日(木)の2泊3日の間に行われたモニターツアーは、50代から60代の男女でリタイアした方または近々リタイアを考えている方で健康に関心のある方を対象とした、会津地方の地域資源を活用したヘルス・ツーリズム滞在プログラムである。今回は、特に大きな混乱はなく終わったが、その成功の影にあるものや、そう簡単には上手くいかないということ、身を以て実感したモニターツアーとなった。ではその、モニターツアーで残された課題と改善点について述べていく。

(1)なかなか人が集まらないという現状

滞在地域は金山町・昭和村・三島町・柳津町の4町村を選定したが、そのメニューの大部分は、金山町で行われた。金山町は、昭和35年には7%台だった65歳以上の人口の割合は、平成18年2月現在では50.7%に達し、全国でも有数の高齢化率である。

しかし、ツアーメニューの中には、メタボリックシンドロームを防ぐための血圧測定や講演、玉梨温泉入浴、沼沢湖畔での森林浴、蕎麦打ち体験など随所に中高年の人達が楽しめるよう気配りがされているプログラムである。そのため私たちは、たくさんの方の参加者を期待した。しかし、東京都内からはダイレクト・メールの配布による方法ではなかなか人が集まらず、募集が困難であった。そのため、主催者となった旅行代理店の支店長が、福島県内の支店の年3回以上旅行する人に声をかけ募集に努めた。結果的には定員を越える多くの方が集まり、受入可能人数(20名)に達した時点で募集を締め切った。このように今回のモニターツアーは主催者となった旅行代理店支店長のネットワークによって参加者を募ったという形で始まったのが現状であった。

(2)2泊3日のツアーを楽しみながら健康を考える

厚生労働省⁹⁾の平成16年国民健康・栄養調査によると、40～74歳において、男性の2人に1人、女性の5人に1人がメタボリックシンドロームか、その予備群であることが報告された。また、生活習慣病は食事・運動・休養の正しい生活習慣を身につけること、つまり塩分を制限した適正カロリー摂取のバランスの良い食事や適度な運動(有酸素運動等)、睡眠・休養などで予防できるといわれている。モニターツアーでは、50代から60代の男女を対象に20名を募った。食生活や運動習慣、ストレスといった健康に不安を抱えている人もそうではない人もツアーに参加することで、2泊3日のツアーを楽しみながら自身の健康を考える機会の提供となった。

⁹⁾ 厚生労働省、日本生活習慣病予防協会「平成16年国民健康・栄養調査の概要」より抜粋。

(3) 今後につなげるために

金山町は 50.7%の高齢化率などマイナスイメージのデータが多い。しかし、金山町のように地域の活性化について対策がなかなか見つけられないと考えられているような地域でも、このようなモニターツアーができるということ、そしてツアーに参加しソバ打ち体験や森林浴、つるの湯温泉入浴など中高年の人達が楽しみながら自身の健康を把握できることから参加者の学習ニーズの満足化を図ることが可能である。今回は、温泉資源¹⁰が豊富にあるということから金山町中心に行われたが、今後は募集方法の改善と比較的アクセスの良い他の市町村での展開の可能性も見込まれる。

第3章 地域別滞在メニューの提案

私達は、12 月末に福島県会津地方振興局の「地域の宝活用事業」の助成を受けて「奥会津地域の自然資源を活かしたヘルス・ツーリズム滞在メニュー」を作成し、福島県会津地方振興局へ提出した。

今回、私達が地域別滞在メニューを提案することに至ったのは、次のことからである。第一に、福島県会津地方振興局から、地域別滞在メニュー作成の要請があったことである。第二に、第2章の説明でもあったように、昨年9月に主に金山町を中心として、昭和村、三島町、柳津町においてヘルス・ツーリズム・モニターツアーを実施した。しかし、金山町のみが過疎化が進行しているわけではなく、金山町以外の地域も高齢化が著しく、過疎化が深刻である。そこで、金山町と同様に他の地域もヘルス・ツーリズム滞在メニューを提案することによって、過疎化の進行を抑制させる努力をしなければならない。この目的に貢献することを目指して私たちはヘルス・ツーリズム滞在メニューを作成した。

地域別滞在メニューの作成の手順は、最初に対象地域である昭和村、金山町、三島町、柳津町、西会津町、喜多方市山都地区、喜多方市高郷地区、喜多方市熱塩加納地区、喜多方市中心地区の現地調査を行うとともに、インターネットを利用し、地域資源について調査した。地域資源は、それぞれの地域ごとに自然資源、温泉資源、観光施設、宿泊施設、神社・仏閣・史跡、地域行事・イベント、特産物・土産品、その他という8つのカテゴリー別に分類した。温泉資源については、泉質、効能、特徴について示した。

次に、各市町村の地域資源と各季節や対象とする年齢を考慮しながら、2泊3日の滞在メニューを作成し、さらに各地域を連携させた2泊3日と5泊6日の滞在メニューを作成した。その際、健康というキーワードを外さないことで、ヘルス・ツーリズムとしてのメニューに、グリーン・ツーリズム、エコ・ツーリズムとしてのメニューを組み合わせることを前提とした。また、メニューごとにルートマップを作成することで滞在メニューの行程を示した。また、今回のヘルス・ツーリズム滞在メニューは、最低参加人数が決められている体験メニュー以外は、少人数旅行として扱うこともできる。

福島県会津地方振興局へ提出した地域資源と滞在メニューの報告書は、ルートマップを除いて60ページとなり、滞在メニューの総数は28となった。しかし今回は、スペースの関係から地域資源は昭和村、金山町の地域資源を、滞在メニューは西会津町、柳津町、喜多方市高郷地区、喜多方市山都地区、喜多方市中心地区の5泊6日の広域連携滞在メニューと昭和村、金山町の2泊3日の滞在メニューに絞って掲載する。

1. 地域別にみた特徴

(1) 昭和村

会津地方の南西部に位置し、野尻川の段丘に沿って集落が点在している。国指定天然記念物に指定されている「駒止湿原」や、県自然環境保全地域の「矢ノ原湿原」など豊富な自然資源を有する。鉄道が通っておらず、バスも一日に3本しか運行していないため交通の利便性には恵まれていない。その上この地域は豪雪地帯であるため冬期間は国道の一部が通行止めとなり、バスの運行が中止されるため、更に交通手段は制限される。産業では宿根カスミソウの栽培に力を入れていて、その栽培面積は全国一位で、関東地方を中心に全国に出荷している。また昭和村は日本最古の織物原料である「からむし」を生産栽培している本州唯一の村で、からむし織でも有名である。他にも、清水の種類が豊富でPRに力を入れている。人口は平成19年7月1日現在、約1700人でうち12歳以下の子供たちは100人、一番多い年齢層は男女ともに70～74歳となってお

¹⁰ 金山町は、滝沢・大塩・湯倉・川口・中川・小栗山・八町・玉梨温泉と8つの泉質の異なる温泉資源を持ち合わせている。

り、過疎と高齢化が急速に進んでいる。高齢者の割合が53.9%(平成18年)と県内トップで、人口の半数以上を占めるという深刻な状況にある。

(2)金山町

県の西部、尾瀬の清流を源流として流れる只見川の中流域に位置し、越後山脈を挟んで新潟県に接している。町の東部には、火山の噴火によってできた沼沢湖があって、その深さは96メートルと県内一を誇り、湖畔の景観がとても素晴らしい。町の面積の90%は森林地帯で、平地は河谷のわずかな部分にすぎない。また、昭和村と並ぶ豪雪地帯でもある。磐越自動車道坂下I.Cから町の中心川口地区まで約40分、会津若松からJR只見線では1時間半程度かかる。主な公共交通機関は会津若松方面と只見方面はこのJR只見線のみ、昭和村までは会津バスだけである。バスの運行回数は多くはなく、移動するには少々不便である。町内では町営バスも運行しているが、日曜日の運行はなく、公共交通機関利用者の二次交通手段としては課題がある。資源としては玉梨温泉や中川温泉、川口温泉、大塩温泉など、かけながし100%の天然温泉が豊富なことがあげられる。65歳以上の人口の割合は、平成18年では52.5%と昭和村に次いで県内第2位である。廃校となった校舎を利用して自然教育村が作られ都市の児童の山村生活体験宿泊で知られているが、訪問児童数が減少している。

(3)三島町

町域は只見川の段丘面と支流大谷川の谷あいには広がり、大部分が山林に覆われていて桐材を多く産出している。北部の只見川沿いに交通が開け、宮下地区には役場や病院など町の主要な機能が置かれている。三島は会津学研究の中心地でもある。1941年(昭和16)には国鉄(現JR)只見線が宮下まで通じて只見川電源開発の拠点となり、宮下発電所が完成して地域を一変させたが、高度経済成長期には人口流出に見舞われた。また、桐の材木を使った工芸品作りも盛んで、生活工芸館や森の校舎「カタクリ」では様々なものづくり体験ができる。他にもヒロロ¹¹細工やマタタビ細工といった編み組細工が特産で、「てわっさの里みやした」や「三谷街道」などの工人郷も多数存在している。高齢化は平成18年には44.7%と昭和村・金山町に次いで県内3位と高めで、工芸の里づくりによって活性化を図っている。また、三島町は民俗行事の宝庫であり、代表的な小正月行事「三島のサイの神」が平成20年1月18日に国の重要無形民俗文化財に指定された。他にも3月の「ひな流し」、6・7月の「虫送り」など合計33の年中行事が、福島県指定重要無形民俗文化財となっている。

(4)柳津町

会津地方の西部に位置し、南端に博士山があり南部は山地が目立つ。町を南北に滝谷川が流れ、町の北部を横切る只見川に合流する。滝谷川に沿う南部は博士山に連なる山間地でいずれも耕地に乏しいが、日本三大虚空蔵尊のうちのひとつ、福満虚空蔵尊を中心とした「信仰の里」として栄えてきた門前町と、豊富な温泉を誇る情緒豊かな町である。福満虚空蔵尊圓蔵寺は、今回対象とした調査地区の中では観光客入込数が最も多い。只見川一帯は只見柳津県立自然公園に指定され、魚淵に柳津ウグイ生息地がある。また温泉では、滝谷川沿いの五畳敷に西山温泉があり、さらに圓蔵寺境内から引き湯している柳津温泉がある。町内には只見川に沿ってJR只見線が走っているが、一日に6本ほどしか運行されていない。また、国道49号線からのアクセスは良いが、国道400号では冬期間通行止めとなる区間もあり、冬期間においては多少不便が生じる。農業が盛んで、米やソバをはじめ、花卉や野菜のハウス栽培が奨励されているほか、特に気候に合っているきゅうりやトマトなど野菜栽培が主要作物となっている。しかし近年は新規就農者もなく、高齢化率も37.3%と進んでいることもあって就農人口は減少している。

(5)西会津町

福島県耶麻郡にある人口約8000人の町で、福島県の北西部に位置する。会津の西の玄関口と言われており、「会津の霊地」信仰の里として古い歴史と美しい自然に恵まれた町である。西に越後山脈が走り、北には磐梯朝日国立公園の雄姿、万年雪を戴く飯豊連峰が間近に望まれ、中央に電源の宝庫、阿賀川が13の支流を集めて西に流れ、日本海に注いでいて、それに並行して磐越自動車道、国道49号線と磐越西線が横断している。会津若松や新潟方面からの交通アクセスはよい。現在も県内外から厚い信仰を集めている山の神が祀られている大山祇神社は、林業が盛んだった頃には参詣客で大変賑わった。その名残で今も多くの旅館が存在する。高齢化率が平成18年には40.1%の西会津町では「健康な体づくりは健康な食べものから、健康な食べものは健康な土づくりから！」の考えのもとに考案された『健康な土づくり事業』や、ミネラル野菜¹²作りを推進

¹¹ 奥山の沢沿いのような湿地に自生する野草。

¹² 鉄分・マグネシウム・亜鉛などのミネラル分を豊富に含んだ野菜のこと。

している。その他にも「保健」・「医療」・「福祉」を連携した『トータル・ケア』を進めていて、「健康」「百歳への挑戦」をキーワードとしたまちづくりに積極的に取り組んでいる。

(6)喜多方市山都地区(旧 山都町)

福島県の北西部にあり、町の北部の飯豊連峰山頂付近で、新潟県、山形県と接する。飯豊連峰付近のほとんどは、南西部を新潟県、北東部を山形県が占めているが、山頂の神社とその参道が山都に属するため、飯豊連峰の三国岳、種蒔山、飯豊山、御西岳と続く稜線に沿って、細長く突き出た形をしている。2006年1月4日に、喜多方市および耶麻郡熱塩加納村・塩川町・高郷村と合併し、新しい喜多方市の合併特例区の一つとなった。公共の交通手段としてはJR磐越西線と市の生活バスが挙げられる。山都は県内でも有名なソバどころで、宮古集落では集落の半分近くのソバ農家が民家で農家食堂を営んでおり、ソバ好きの人で賑わっている。沼ノ平集落には福寿草の群生地があるほか美しい棚田があり、遊休化した棚田には植樹するなど、花をキーワードに年間を通した集落の活性化に取り組んでいる。高齢化は平成18年には39.0%となっている。高郷地区、熱塩加納地区と同様で単体で滞在メニューを考えるには地域資源がやや乏しい。

(7)喜多方市高郷地区(旧 高郷村)

阿賀川が只見川と合流し、会津盆地から越後山脈へと貫流し始める地点に位置する。四方を山に囲まれた秘境の里である。2006年1月4日に喜多方市、耶麻郡塩川町・山都町・熱塩加納村と合併し、新しい喜多方市の合併特例区の一つとなった。荻野でグリーン・タフ(緑色水成岩)の荻野石を産するが、豪雪地帯で企業進出は進んでいない。豊かな水量の阿賀川を利用して、発電所が築かれ、広い河川を利用した阿賀川の荻野漕艇場を中心にウォータースポーツやレジャーも盛んである。塩坪化石層では昭和55年に海牛¹³の化石が発見され、郷土資料館にはこの「アイヅタカサトカイギユウ」の化石が展示されている。そでやま夢交流館では他の地区ではなかなか体験できない化石発掘を体験することができる。公共の交通機関としてはJR磐越西線と市の生活バスが挙げられる。高齢化は平成18年には34.5%となっている。山都地区、熱塩加納地区と同様で単体で滞在メニューを考えるには地域資源が乏しい。

(8)喜多方市熱塩加納地区(旧 熱塩加納村)

会津盆地の最北端に位置し北は山形県に接する。三方を山に囲まれ、一方は会津に向かって開いている温泉郷で、飯豊連峰の南麓山間地の川谷沿いに集落が立地する。2006年1月4日に、喜多方市および耶麻郡塩川町・山都町・高郷村と合併し、現在に至る。寒暑ともに気候は厳しいが、それだけに自然の美しさも素晴らしい。押切川上流には日中ダムが設けられ、古い歴史をもつ熱塩温泉がある。熱塩温泉には護法山示現寺があり、座禅や法話の体験などができ、「禅の里」としてまちづくりに取り組んでいる。また、アイガモ農法などによる有機農業に力を入れていて、群生地があるヒメサユリをもとに名付けられた「さゆり米」は第一回環境保全型農業コンクールにおいて「大臣賞」に選ばれた日本一の有機米である。高齢化は平成18年には33.4%となっている。山都地区、高郷地区と同様で単体で滞在メニューを考えるには地域資源が乏しいため、近隣地区との連携を必要とする。

2. 地域別の諸資源と滞在メニュー(一例)

(1)昭和村

I) ツアーメニューを考えるにあたってのポイント

本州でたったひとつ、ここ昭和村だけに受け継がれてきた日本の伝統文化であるからむし織をはじめ、村人によって大切に守られてきた数ある銘水や、村の四季を彩る可憐で美しい花たちが生息する湿原、銀世界の中で行われる村伝来の行事など、昭和村でしか出会うことのできない自然や伝統文化に触れ、学び、体験できるメニューを提案した。

¹³ 絶滅した海棲哺乳類の一種、ジュゴン目(海牛目)ジュゴン科に属する。

II) 昭和村の地域資源

地域資源		詳細
自然資源	駒止湿原	国指定天然記念物に指定されている湿原はブナの原生林に囲まれ 3 ブロックからなる。初夏の水芭蕉に始まりワタスゲ、ニッコウキスゲの群落が見事。1 周約 2 時間の遊歩道がある。
	矢ノ原湿原	春の水芭蕉、秋の紅葉が美しい高原の湿地帯。280 種にもなる植物が群生し、珍しいハッチョウトンボが棲息している村の天然記念物。1 周約 30 分の遊歩道がある。福島県自然環境保全区域に指定されている。
	博士山	大沼郡の最高峰で、会津盆地、只見川流域、遠く越後三山と 360 度の大パノラマを楽しむことができる。登山道あり・距離 4km。
	水芭蕉としらかばの杜	昭和村のシンボル・博士山山麓に広がる白樺の林と群生する水芭蕉。1 周約 30 分の遊歩道ある。
	冷湖(ひゃっこ)の霊泉	昔、日照りで困っていたところ名主の夢枕に御神楽岳の天狗が現れて水のお告げをしたという天狗伝説が残る清冽な清水。
	源兵衛清水	姥石山付近に老いた母を捨ててはならなかった源兵衛の悲しみの涙が清水となったと伝えられる深層水。
	天狗の冷泉	天狗山と呼ばれた一帯は 300 年ほど昔、豪族がこの地に館を築いた場所で、古戦場にもなりこの泉は「神泉」とも称されたといわれている。
	二階(にけえ)の清水	萱刈りなどをした地区の人たちが、山仕事の合間や昼飯時に喉を潤した清水。ご飯に味噌をのせ、清水をかけて食べるのが旨かったとか。
	寺の下清水	古くから飲用にされてきた清水で岩の割れ目からちよろちよろと湧き出ているが、湯水することのない名水。
	矢ノ原清水	矢ノ原高原の伏流水で約 3 キロ奥の岩の割れ目からこんこんと湧き出し、田ノ口沢の源流となっている集落の貴重な飲料水。
	白森清水	明治以前は道もなく、山菜採取の行き来に沢の流れを歩いて通ったという、知る人ぞ知る場所にあった清水。
	ブナ清水	博士峠の頂上近くにあり、ブナの大木の間からこんこんと湧き出る清水。従来の旅人に好まれ、雑談の場所にもなっていた。
	代官清水	村を視察にきた幕府巡見使の一行がこの清水で喉を潤したところ、あまりのおいしさに、代官にこれを保護するよう申しつけたという名水。
	温泉資源	湿原植物
溪流釣り・鮎釣り		4 月から 9 月は溪流釣りの季節。玉川渓谷や野尻川は多くの釣りがイワナやヤマメなどを釣りにくる。また 7 月からは鮎釣りが解禁になる。
温泉資源	昭和温泉「しらかば荘」	<p>泉質：黒鉱採掘の際に湧出したと言われるナトリウム塩化物温泉効能：切り傷、火傷、慢性皮膚病、虚弱児童、慢性婦人病など</p> <p>特徴：微黄色透明、弱塩味、無臭の天然温泉</p>
観光施設	からむし織の里	からむし織や伝統工芸品に触れる体験交流の場「織姫交流館」、人と植物の営みを伝える「からむし工芸博物館」、昭和村の郷土料理が味わえる「芋麻庵」。ここでは、村が守り続ける伝統を気軽に楽しむことができる。

	奥会津昭和の森キャンプ場	周囲を深閑とした森に囲まれた昭和の森はバンガロー、キャビン、オートキャンプ場、テントサイトが広大な敷地に点在。用途に合わせて宿泊を選び、アウトドアを楽しめるキャンプ施設。
	下平運動公園	野球場、テニスコート、多目的運動場のほか、子どもの広場もあり、老若いずれにも充実した運動公園。
宿泊施設	昭和温泉「しらかば荘」	泉質：黒鉱採掘の際に湧出したと言われるナトリウム塩化物温泉 効能：切り傷、火傷、慢性皮膚病、虚弱児童、慢性婦人病など 特徴：微黄色透明、弱塩味、無臭の天然温泉
神社・仏閣・史跡	佐倉観音寺	元和2年(1616年)創建。奥会津三十三観音の七番札所として有名。
	小中津川気多神社	近年改修を終えたばかりの舞台を擁し、コケラ落としに檜枝岐歌舞伎が上演された文化財。
	戊辰の役古戦場	矢ノ原の戦いの跡。皮肉なことこの戦いは、鶴ヶ城落城後の戦いだった。会津藩士、野村新平の墓がある。
	双体道祖神	道祖神は境を守り悪霊の進入をささぎる神。しかし時代が進むにつれ行路の神、旅の安全、出産、幼児加護、縁結び、夫婦円満の神としての性格をもつようになったといわれている。
	正法寺 かしわの木	下中津川正法寺の境内にある村の天然記念物。樹齢350年。
	春日神社 さいかちの木	中向春日神社の境内にある村の天然記念物。樹齢300年。
地域行事・イベント	からむし織の里 雪まつり (2月下旬)	厳しい自然を逆に利用しようとしたイベントで、冬の昭和の風物詩、雪ざらしの実演や芸能祭りなど文化の交流に役買っている。
	博士山水芭蕉まつり(5月上旬)	水芭蕉の開花にあわせ、「水芭蕉としらかばの杜」で行われるイベント。甘酒ふるまいや物産の店が軒を並べる。
	からむし織の里フェア(7月下旬)	からむし織を、多くの人に広く知ってもらおうと始めたイベント。苧引き、苧積み、織の実演・体験やからむし織の着物ショーなどが行われる。
	昭和村秋味まつり(11月上旬)	村で採れるキノコを使った料理や、名物の矢ノ原高原ソバが食べられる、秋の味覚満載のイベント。採れたてのおいしい山の幸をたっぷり堪能できる。
特産物・土産品	からむし織	苧麻と呼ばれる植物の繊維から作られるからむし織は、弾力性があるため軽く、吸湿性に優れているので、夏の被服素材として最適である。着物のほかにも帯や日用品などの小物が観光土産品として生産されている。1本の帯が植物の状態からさまざまな手作業を経て出来上がるまでに、80日から100日も費やされる。
	じゅんさい	清水の豊かな水深の浅い池沼などに生息し、古くは「古事記」にも登場する食用の多年草である。寒天のようなものに覆われ、まだ開いていない若い葉や茎を6~7月頃収穫し、酢の物や和え物、汁の実などにして食べる。ローカロリーでビタミンB12が豊富なことから、近年見直されている食材である。
	オリンダ	パプリカの一種でトマトのような丸くかわいらしい形をしている。ビタミンやミネラルを豊富に含み、オリンダの濃い鮮やかな赤色にはがん抑制の効果があるといわれている。
	カスミノウ	昭和村の農業の中心を占めているのがこの宿根カスミノウの栽培で、全国市町村第1位の栽培面積を誇る。矢ノ原高原を中心に、6月から11月にかけて栽培している。近年は染色したカスミノウのバリエーションも増えている。

Ⅲ) 昭和村ツアーメニュー

心に残る色鮮やかな風景を楽しむ ～昭和村ネイチャートレッキングツアー～(冬季を除く)	
項目	備考
1 日 目	ネイチャー・トレッキング:①駒止湿原 ・ 駒止湿原(国指定天然記念物に指定されている湿原はブナの原生林に囲まれ 3 ブロックからなる。初夏の水芭蕉に始まりワタスゲ、ニッコウキスゲの群落が見事。) ・ 所有時間:1 周約 2 時間
	②昭和温泉「しらかば荘」到着 ・ 入浴
	夕食 ・ 自己紹介 ・ 昭和村の宝紹介 昭和村職員、村民による地域資源紹介
2 日 目	ネイチャー・トレッキング:③博士山 ・ 弁当の用意 ・ 博士山(大沼郡の最高峰で会津盆地、只見川流域、遠く越後三山と 360 度の大パノラマを楽しむことができる。) ・ 距離:4km
	昼食(博士山山頂付近にて)
	ネイチャー・トレッキング:④水芭蕉としらかばの杜 ・ 水芭蕉としらかばの杜(昭和村のシンボル・博士山山麓に広がる白樺の林と群生する水芭蕉。洋風のあずまやに腰を下ろし、白樺の梢を鳴らす風に耳をかたむけてみたい。) ・ 所有時間:1 周約 30 分
	⑤昭和温泉「しらかば荘」到着 ・ 入浴
	星空ウォッチング(夕食後)
3 日 目	ネイチャー・トレッキング:⑥矢ノ原湿原 ・ 矢ノ原湿原(春の水芭蕉、秋の紅葉が美しい。280 種にもなる植物が群生し、珍しいハッチョウトンボが生息する。福島県自然環境保全区域に指定されている。) ・ 所有時間:1 周約 40 分
	⑦からむし織の里見学 ・ 昼食
	田島駅到着

(2)金山町

I) ツアーメニューを考えるにあたってのポイント

総面積 293.97km²のうち 90%は森林地帯が占め、人口は約 2,800 人、大小 30 の集落がある。高齢化率は、平成 18 年 2 月現在では 50.7%に達し、全国に先駆けて高齢化が進んでいる。しかし、金山町には只見川や沼沢湖、8 つもの泉質の異なる温泉資源や自然教育村など多くの地域資源に恵まれ、住み良いまちづくりが進められている。よってこの地域の特性を前向きに捉えた滞在メニューを提案する。

II) 金山町の地域資源

地域資源		詳細
自然資源	只見川	会津地方を中心に流れる阿賀野川水系の河川である。流域面積は約 2,260km ² である。
	沼沢湖	深さ 96mと県内一の深さを誇るカルデラ湖で、約 5,600 年前にできた山頂の湖、ブナ・ミズナラの森に抱かれ、周辺エリアには、ヒメマスが泳ぐ。大蛇や妖精が棲むという伝説が残る神秘的な湖である。
	高森山(1,100m)	只見川をはさんで、裾野に広がる玉梨上野を経て沼沢湖へたどる登山コースとなっている。山頂からは沼沢湖の展望が望め、御神楽岳、浅草山、飯豊山などの会津の山々があり、高森山(1,100m)の中腹には、史跡丸山城址がある。(所要時間:5 時間)

	御神楽岳(1,386m)	会津総領守の伊佐須美神社の源である神を祀った聖山で変化に富んだ山である。山頂からは遠く磐梯山や飯豊山をはじめ、浅草岳、守門岳などの山々が眺められる。雪解け水や湧き水を集めて流れる霧来沢の清流は、山登りの魅力のひとつである。(所要時間:往復7時間)
温泉資源	中川温泉	西丹沢の山中に湧く、かけながし 100%の温泉である。10,000 坪の敷地に源泉を持つ全 10 室の湯宿となっている。 泉質:ナトリウム-硫酸塩・炭酸水素塩泉(pH6.9) 特徴:源泉温度は、44.5 度でやや温めで、お湯はわずかに白濁している。 効能:リュウマチ性疾患、動脈硬化症、高血圧、打ち身、傷の回復等
	川口温泉	野尻川のほとりにある浴場で、二酸化炭素含有量は 0.9 と微量である。毎分 285L かけ流しされている。 泉質:ナトリウム-塩化物・硫酸塩泉 (pH7.4) 効能:神経痛や関節痛などの一般効能の他、切り傷、慢性皮膚病に効く。
	玉梨・八町温泉	只見川の支流、野尻川の溪流に沿った温泉郷。胃腸病によく効くお湯(含芒硝食塩泉)として知られている。国民保養センター「せせらぎ荘」では、野趣あふれる料理が出される。 泉質:含二酸化炭素-ナトリウム-塩化物・炭酸水素塩泉(pH6.4) 効能:神経痛、リュウマチ、切り傷、やけど、皮膚病、疲労回復に効く。
	湯倉温泉	只見川のほとりにある趣ある温泉で、御神楽岳登山を始めとし、溪流釣りの宿として有名である。 泉質:ナトリウム・カルシウム-塩化物・硫酸塩泉(pH7.0) 効能:弱食塩重芒硝泉には、切り傷、やけど、皮膚病が挙げられる。
	大塩温泉	泉質:含二酸化炭素-ナトリウム-塩化物・炭酸水素塩泉(pH6.5) 効能:胃腸病によく効くといわれている。食塩泉という事からリュウマチ、切り傷、やけど、皮膚病、腰痛などにも効果的だとされている。
観光施設	自然教育村	「自然教育村」の体験は、豆腐・納豆・こんにゃく作りといった山村の生活体験から、イモ掘り、稲の脱穀などの農業体験、その他には、わら細工や竹馬作りなどがある。自然に接することの少ない都会の子供たちに、豊かな自然を活用しながら昔から受け継がれてきた山村の生活を実際に体験してもらおうというものである。
	こぶし館	こぶし館とは、奥会津金山の高原の冷気と陽気に育まれた美味しい手打ち蕎麦(アザキ大根高遠そば)が賞味できる味処である。桐製品や特産品も販売している。縄文文化からの歴史民俗資料展示室も設置されており、郷土学習の施設としても活用されている。
	妖精美術館	森に囲まれた湖・沼沢湖のほとりにある。世界中から集められた妖精にまつわる絵画、絵本、文学などを展示している日本でただ一つの妖精の館である。冬期間(11 月～翌年 4 月下旬)は休館となる。
	自然休養村センター	公園、オートキャンプ場(28 区画)、一般キャンプ場、湖水浴場の施設や設備が揃っている。自然休養村センター「レストランあらはま」では、ヒメマス定食が出る。周辺の森には様々な種類の野鳥が飛び交う格好のスポットになっている。毎年 8 月第 1 土曜日、日曜日には「湖と妖精のフェスティバル」が行われ、勇壮な大蛇退治の時代絵巻が繰り広げられる。
	フェアリーランドかねやますキー場(冬季)	奥会津の大自然のなかに、白銀の世界が広がっている。初心者から上級者まで存分に楽しめる魅力が多くあり、ゲレンデ状況は、3 つのコースと公認 35m級ジャンプ台やクロスカントリーコースも完備しており、1 日では回りきれない充実ぶりである。
神社	中丸城跡	中世の 400 年間、この地方を支配した山ノ内氏は本拠地として横田を選び、鷹の巣山に中丸城と名付けた城を築いた。中丸城の頂上は 547m で、天険を利用した要害の山城である。頂上の平地には現在も摩利支天がまつられている。

仏閣・史跡	鮭立の磨崖仏	不動明王を中心とした大小さまざまな、51体の仏像は、200年程前から数10年の歳月をかけて、五穀豊穡、病苦退散を祈って彫られたものである。全面の幅およそ5m、高さ2m、奥行きは浅く1.5m程度の洞穴の壁面に彫刻されたもので、規模は小さいのが、製作当時は各体に顔料を施し、大変優美な磨崖仏だったとされる。
	聖観音坐像	宮崎大悲堂に鎌倉時代中期の作といわれている。輪光背で、その像高は99.5cm、直径は69.2cm、用材はヒノキで寄木造り、漆箔が施されている。
	糖塚古墳	豪族の墓である糖塚古墳は太郎布高原にあり、直径30m、高さ5mの円墳で7世紀頃のものといわれている。横穴式の古墳と考えられており、頂上に載せられた川原石(蓋石)の直下には地方豪族の遺体を収めている石室があるのだが、この石室に通じる道が埋没してしまっているため、現在は確認されていない。
	旧五島家住宅	江戸時代中期に建てられ、3間取りの広間型で、平屋中門造りで多雪対応の住居形式をとっている。高さはわずか10尺で低く、礎石に直接立てる石場立てである。座敷と部屋のほかは一切戸や障子を用いず、内部はきわめて開放的である。
	道祖神	旅の行路を守る役目もあるが五穀豊穡などを願って拝まれることも多い。
地域行事・イベント	沼沢湖一周トレッキングコース	惣山(816m)は、沼沢湖のカルデラ内輪山で、眼下に湖を眺めながら稜線を歩く。湖のほとりから太郎布高原にかけては、野鳥の森でハイキングコースになっている。(所要時間:3時間)
	滝沢川溪谷ハイキングコース	只見川の支流、滝沢川の溪流が刻んだおう穴群と岩の回廊がある。会津大塩駅～滝沢川溪谷～会津大塩駅(所要時間:4時間)
	山入り歌舞伎	山入地区で地元の人たちによって行われる芝居である。平成14年には、山入地区に芸能伝承館が完成した本格的なステージがある。また、平成19年9月5日(水)には、福島県会津地方振興局主催のモニターツアー「湯ったりしらんしょ、心温まる奥会津―欲張り健康ツアー充実の3日間モニター募集―」でも披露され、大変完成度の高いステージであった。
特産品	天然炭酸水「awa心水」	毎日飲む水だからこそ、体にやさしく、美味しくなければという発想から生まれた微炭酸の水である。奥会津の袖山から湧き出る天然の炭酸ガスを含有する単純二酸化炭素冷鉱泉(炭酸ガス含有量:1,000mg以上/L)である。

Ⅲ) 金山町ツアーメニュー

金山町・山村体験教育旅行メニュー(5月～10月)		
項目	備考	
1日目	① 午後、金山町・自然教育村に到着 健康ウォーキング	・健康ウォーキングの講義と実習
	② 生活体験館にてわら細工製作体験 ・わら細工(わらじ1足)作り ・ろうそく作り	・生活体験館使用料:団体150円 ・受入れ期間:通年 ・受入れ体制:5人より ・わら細工作り等料金:計1,500円
	昔語り	・自然教育村講師 佐藤兼子さん
	③ 温泉	・沼沢温泉、川口温泉、玉梨温泉、八町温泉、湯倉温泉、大塩温泉の計6ついずれかに入浴
2日目	手作り納豆と郷土料理作り体験 ・納豆の作り方 ・コンニャク作り・ソバ打ち体験	・いずれかを選択 ・自然教育村講師 高橋咲子さん ・自然教育村講師 五十嵐エリ子さん
	昼食	・手作り納豆、コンニャク、ソバ
	④ 野尻川へ移動 ・溪流釣り・カヌー体験	・溪流釣り 野尻川(ヤマメ・イワナが釣れる) ・カヌー体験 沼沢湖(5月～10月限定)

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 農業体験 ・ 天然炭酸水の出る大塩地区の見学 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 天然炭酸水「awa 心水」
	夕食	・ カロリー計算された青ばと豆腐を使った料理
	温泉	・ 沼沢温泉、川口温泉、玉梨温泉、八町温泉、湯倉温泉、大塩温泉の計6ついずれかに入浴
3 日 目	自然教育村出発	
	⑤ こぶし館見学	<ul style="list-style-type: none"> ・ 美味しい手打ち蕎麦(アザキ大根高遠蕎麦が賞味できる味処) ・ 桐製品や産品などの展示販売
	⑥ 玉梨とうふ茶屋にて買物、解散	

IV) 地域連携メニュー：西会津町－柳津町－喜多方市高郷地区－喜多方市山都地区－喜多方市

アート&ウォーキングツアー(7,8,9月と冬季は大山祇神社を除いて実施)		
項目	備考	
1 日 目	①道の駅にしあいづ集合	・ 昼食は事前に済ませておく。
	②ロータスイン ヘルス・ツーリズム講座:温泉療養学、健康診断 ウォーキング実習	
	ロータスイン宿泊	
2 日 目	③鳥追観音、大山祇神社巡り	・ 岳、健康長寿、子宝安産の神様を祀っている。麓に遙拝殿があり、さらに山道を1時間30分ほど登ったところに本殿がある。
	④野沢温泉 入浴	
	昼食	
	⑤国際芸術村	・ 美術体験
	柳津に移動 柳津温泉旅館宿泊	・ 柳津温泉入浴
3 日 目	⑥ 斎藤清美術館・アトリエ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学芸員による作品解説、スケッチの取り方の説明や指導 ・ 営業時間:9:30~16:00 ・ 入館料:一般(団体)400円
	昼食	
	⑦柳津町並み散策	<ul style="list-style-type: none"> ・ ガイド付き ・ 清流苑をでて観光しながら虚空蔵尊に向かう。途中あわまんじゅうのお店や駄菓子屋などがある。
	微彫彫刻鑑賞	・ 柳津が世界に誇る伝統工芸品
	福満虚空蔵尊圓蔵寺参拝	・ 福満虚空蔵尊をはじめ開運撫牛や歌人の歌碑や句碑などもある
柳津温泉旅館宿泊		
4 日 目	⑧小野小町塚見学	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高郷に移動 ・ 小野小町塚(小野小町が生まれ故郷といわれる出羽ノ国に向かう途中、病にかかりこの地で他界したという。)
	⑨円満寺見学	・ 円満寺(500年近い歴史を誇る このお寺の境内には、県の緑の文化財にも指定された古木、「ならずの銀杏」や古くから村里に時を告げ続けてきた釣鐘などがある。)
	昼食・入浴	ふれあいランド高郷

	⑩化石発掘体験	・二枚貝やほ乳類などの発掘体験ができる。(中学生以下 500 円、高校生以上 700 円)
	⑪久昌寺参拝	
	⑫いいで荘宿泊	
5 日 目	⑬飯豊とそばの里センター ・ソバについての学習会 ・ソバ打ち体験、試食、買い物又は見学 ・ 昼食	・入館料:小・中学生 300 円、一般 500 円 ・ソバ打ち体験は 90 分程度 (ソバ粉 500g、一人 2000 円)
	⑭一ノ戸川鉄橋見学	・一ノ戸川鉄橋(明治 43 年完成当時は、東洋一のスケールを誇った石造りの鉄橋)
	⑮泉福寺参拝	
	⑯飯豊山神社参拝	・飯豊山神社(拝殿には、五社権現の本位仏として知られる「銅造五大虚空蔵菩薩坐像」(県重要文化財)が安置。)
	⑰いいでの湯宿泊	・硫黄塩温泉。適応症は、創傷、慢性皮膚病、神経痛。
6 日 目	⑱蔵座敷美術館	・喜多方に移動
	⑲うるし美術館	
	⑳喜多方駅解散	

(3)その他の地域のツアーメニューを考えるにあたってのポイント

I) 三島町

三島町は、工人郷が多数存在しており、ただ観光するだけでなく体験を取り入れることができる町である。また、美坂高原・三坂山・志津倉山などの自然も豊富にあり、ヘルス・ツーリズムを行う場所としては最適であると考え。体験メニュー、森林浴の場所、地域別地域資源を変えることで、年に数回の多様なツーリズムメニューの提案が可能である。

II) 柳津町

福満虚空蔵尊圓蔵寺の門前町として栄えてきた柳津町は歴史と自然を大事にしている。また、それに関連した芸術の分野で斎藤清美術館を活用した写真撮影やスケッチ巡りなども考えられる。そして、数多く存在する名勝を実際に自身の足で歩き、観て、体感してもらう。そうした作品づくりや体感を通じた地域の方々や参加者同士の交流に重点を置き、何度も訪れたいくなる柳津ツアーを計画した。

III) 西会津町

西会津町の『百歳への挑戦』、そして『すべてにやさしい健康のまち にしあいづ』というキーワードをもとに、ツアーメニューを考えた。ロータサインの広大な敷地内でのヘルス・ツーリズム講座や地域資源を活かしたエコツアーを通し、地域住民も旅行者側も心身共に健康になれるところがポイントとなる。また、その他の体験で西会津町の魅力を知ってもらう。

IV) 喜多方市山都高郷・熱塩加納・中心地区

喜多方市山都地区は県内でも有名なソバ処なので、ソバ打ち体験やソバに関する学習会をメニューに取り入れることによって山都らしさを感じてほしいと考えた。また、飯豊山や福寿草といった山都が有する豊かな自然や歴史・文化に、近隣の高郷・熱塩加納の資源を組み合わせることで、様々な年代の方が楽しめるようなメニュー作りを心がけた。また、喜多方市中心地区においては、隣接地域の不足分の地域資源を補うために用いることを前提とする。

3. ヘルス・ツーリズム滞在メニューの実施にあたって

(1)ヘルス・ツーリズムの位置づけについて

ヘルス・ツーリズム、エコ・ツーリズム、グリーン・ツーリズムの三要素はお互いに関連し合い、重なり合っている関係にあるの

で、明確に区別し、分離して実施することは現実的ではない。すなわち、ツーリズムメニューに当たっては、三つのうちいずれかの要素を中心的要素とするのかの問題となる。例えば、自然環境を利用したメニューにおいて、健康づくりに活用すればヘルス・ツーリズム、自然保護観察に活用すればエコ・ツーリズム、森林や田園での農作業体験等を行えばグリーン・ツーリズムとなる。しかし、自然保護観察や農作業体験も気分転換や一定の運動効果があることから、ヘルス・ツーリズムの要素を含んでいる。したがって、重要なことは、各種実施メニューについて、何を実施目標とするのかを明確に確定する必要がある。

(2) 地域資源と滞在メニューについて

それぞれの地域によって地形、歴史、伝統文化、気候、人情、さらに人材や食材などの多様性が存在する。そのため、実施地域によって、プログラムが同じであっても大きく異なるツーリズムの滞在メニューを提案できる。例えば、ウォーキングというメニューについて、ウォーキングを実施する環境により異なるイメージを与えることができる。また、地域資源を説明するプレゼンテーション能力を備えた優れたガイドによる説明があるかないかによっても、そのメニューが全く異なるものとなる。今後のツーリズムは、地域資源の価値や歴史など多岐にわたる説明能力が求められる。なぜなら、中高年のツアー参加者の学習意欲は大変旺盛であるからである。

(3) 地域連携と多様性について

特定の地域に存在する地域資源には限界があることは、否定しがたい事実である。その限界を克服するには、地域間が相互に連携することによって、多様性を形成し、ツーリズム市場の厚みや深さをつくりだすことができるし、訪問者側のニーズをより多く満たすことが可能になる。それぞれの地域は競争関係にあると同時に、相互補完関係にもあることを認識し、お互いに切磋琢磨しながら協力していく姿勢が各地域に求められる。

(4) メニューの実施について

ヘルス・ツーリズム滞在メニューの実施体制構築のために、推進組織作りを進める必要がある。NPO、行政関係機関や、諸団体等で構成されることになるが、行政は一定間隔で人事異動があるから、あくまでもサポート役に徹するべきであり、NPO等の団体の代表者のように恒常的に関与できる人員を中心に推進組織を構成すべきである。

第4章 中山間地域でのグリーン・ツーリズムの提案

1. 久保田地区でのグリーン・ツーリズムの実施概要および選定理由

久保田地区は柳津町の南東部に位置する人口およそ100人、平均年齢も高い値を示す典型的な限界集落である。限界集落とは過疎化や高齢化が進行し、共同体としての機能が失われる可能性を有する集落と定義されている。古くより農業を生業としてきたこの土地は、四方を高い山々に囲まれている為に、その主な耕作地は極小の棚田群であり、戦後の大型耕作機械の導入による農業改革に大きく遅れを取らざるを得なかった。加えて昨今の米価下落も農業従事者の減少へと繋がり、それに伴う地域行事の継続や集落機能の維持も年々困難となっている。

棚田が存在する地域の集落機能の衰退は同時に近隣の自然環境にも悪影響を及ぼす。洪水や土石流を始めとする自然災害、下流域に住む人々への飲料水供給機能の低下などが予想される。その対策として久保田地区の存続は、単なる集落維持の範囲を超えた重要性を持っている。

そうした状況を打破するための地域活性化策を模索していた折に、「子ども農山漁村体験交流プロジェクト」の話を耳にした。同取り組みは総務省や農林水産省、文部科学省が主導して、全国の小学校高学年を対象に農村での体験交流活動を通じて、子供達の感性を養わせる事を目的としている。しかしその受入れ地域に関しては満足に整備されているとは言えず、全国的に候補地を募集しているのが現状である。棚田をはじめ、会津地方でも有数の自然に恵まれた久保田地区は、そのモデル地域として適当であり、長期的な視点での取り組みが可能であると判断した。なぜなら、何よりも住民達の集落の維持・存続を願う気持ちや、グリーン・ツーリズム導入に向けた熱意が、実施の大きな決め手となった。

12月4日柳津町の久保田地区で集落説明会を行い、グリーン・ツーリズムの紹介や、これから実施が期待されるメニューや

料金など具体的な例を挙げながら森ゼミの提案を説明した。参加者は熱心に説明に聞き入り質疑応答も充実したものとなった。

グリーン・ツーリズムでは地域住民との交流や農業体験を通して地域活性化につながるだけでなく、青少年の健全育成や体力作りといったヘルス・ツーリズムの側面も持っている。この取り組みによって集落が活気づき福島県内の条件不利地域でのグリーン・ツーリズムの展開例を構築したいと考えるが、それは次年度に現在の一年生が取り組むことになる。

2. 具体的な提案内容の一例

季節ごとの地域資源を組み合わせたメニューを集落説明会で紹介した。

		メニュー	備考および実施ポイント
春期 (4月～6月)	主	田植え	<ul style="list-style-type: none"> 手植えを原則とする。 木杵を転がす、ロープで線を引くなどして目印を付ける。
		三十三観音まつり	<ul style="list-style-type: none"> 毎年4月29日開催。
	副	山菜採り	<ul style="list-style-type: none"> 野山に精通している者がガイドに入る。
		カタクリの花観察	
		茸のコマ打ち(植菌作業)	
夏期 (7月～8月)	主	草刈り	<ul style="list-style-type: none"> 手刈りを原則とする。 経験者や熟練者には草刈機を用意。
		除草	
	副	溪流釣り	
		川遊び	
		ホテル観察 納涼盆踊り大会	
秋期 (9月～10月)	主	稲刈り	<ul style="list-style-type: none"> 手刈りを原則とする。
		はさ掛け	<ul style="list-style-type: none"> 参加者が手刈りした稲穂を稲藁で束にし、木組みの稲架(はさ)に架けて天日乾燥させる。
	副	キノコ採り	
		新ソバ打ち	<ul style="list-style-type: none"> 打ち方を熟練者が指導
		紅葉狩り 秋祭り(収穫祭)	
通年	主	自然散策	<ul style="list-style-type: none"> 春:花見 夏:森林浴 冬:スノーシュー(雪上かんじき歩行)
		昔語り	<ul style="list-style-type: none"> 地区の年長者が語り部となる。 衣装などに工夫を凝らして雰囲気を出す。
	副	ソバ打ち	
		炭焼き	<ul style="list-style-type: none"> 本格1週間コースも用意
		餅つき	<ul style="list-style-type: none"> 臼と杵を使った昔ながらの方法で実施。
		郷土料理作り	<ul style="list-style-type: none"> 郷土料理は味付けの濃いものが多いので、栄養士を講師にして、健康に配慮する等アレンジを加える。

4. 現段階での取り組み

説明会后 12 月 14 日に集落内の希望者 10 名がグリーン・ツーリズムの先進地である新潟県阿賀町で視察を行った。そのうち 2 名が女性であった。

視察後の話し合いの結果、始めから宿泊型で実施するのは受け入れ態勢が不備であり集客も難しいと判断し、まずは 4 月に行われる三十三観音祭りの日に日帰り型で実施することとなった。現在、祭りを盛り上げるためのチラシ作り等を行っている。数年かけて次第に農作業体験だけではなく、宿泊などへの展開が望まれる。その際森ゼミの一年生も参加する予定である。また実施へ向けて参加者が自炊を行うための炊事場や道具の確保などの受け入れ態勢の整備も進めていく。

久保田地区の人達が視察にいった新潟県に比べ、福島県は食品衛生法等グリーン・ツーリズムの実施に関する法律の規制が厳しい現状にある。大学側の主導による呼びかけでの規制緩和へ向けた取り組みも視野に入れている。

おわりに

1. 各ツーリズムの今後の展開方向

(1)ヘルス・ツーリズム

近年、我が国では高齢化が深刻化しており 2005 年には 20.04%を記録した。2025 年には、30%になると予測されている。また、近年、ストレスによるうつ病が増えている。また、2004 年厚生労働省の国民健康、栄養調査で心筋梗塞や脳卒中などに進行する危険性が高まると言われる「メタボリック症候群」有病者は、約 2,000 万人と報告された。

これらの課題を解決する方法として、共通であることは心身共に健康であるということである。そのための一つの手段として、ヘルス・ツーリズムを活用することが挙げられる。なぜならば、高齢化率が上昇しても、健康な高齢者が増えれば増加する医療費に歯止めをかけることができる。また、ストレスを軽減させるためには何より気分転換が重要であるが、ヘルス・ツーリズムには精神療養効果が期待されている。例えば、今回のモニターツアーで実施された健康ウォーキング、つるの湯における温泉入浴、低カロリーの伝統料理を食すことは身体面、精神面での健康促進に役立つ。また、昔語りを聴くこと、山入歌舞伎鑑賞は精神面への健康促進が期待される。それから学習会により、健康についての意識を高めることができる。また、今回のモニターツアーで実施されなかった農作業体験なども健康促進に効果がある。

今後の新しいヘルス・ツーリズムの展開方向として、グリーン・ツーリズム、エコ・ツーリズムとの関連性を強めたヘルス・ツーリズムを提案する。グリーン・ツーリズムとの連携では、例えば、棚田オーナー制度との接続によるツーリズムメニューの充実を図る。具体的にはヘルス・ツーリズムの観点から、農作業体験を通じて、運動不足解消、青少年食育の推進、オーナーの健康維持を望むことができる。エコ・ツーリズムとの連携では、森林浴ウォーキング、カタクリやサクラソウ、福寿草等を観賞する里山体験、そして体験型エコツアーを取り入れたメニューの充実を図る。具体的には参加者への精神的安定効果、精神活性化効果を望むことができる。以上のことから 3 つのツーリズムは、健康をキーワードとして密接に結びついているので、組み合わせることでシナジー効果が発揮され新たなツーリズムの展開が可能となる。

第 3 章で述べたように、それぞれの地域には多様な地域資源が存在していることから、シナジー効果の発揮方法は地域資源の状況によって異なってくる。したがって、それぞれの地域の滞在メニューの構築と実施については、製品差別化のコンセプトを重視し同質化を避けることが重要である。そして、顧客を分け合うようにして競合をできるだけ避け、価格競争に陥り、相互に顧客の減少をもたらすことを回避する必要がある。その努力は市場の厚みを形成する努力であり、その努力がツーリズムメニューの多様性を形成することにつながる。その結果、リピーターを確保するだけでなく、新規顧客の獲得にも結びつく。

ヘルス・ツーリズムを実施する狙いは、以上のように人々が健康になること、そして何よりも地域を活性化させることにある。健康をキーワードとして温泉資源、自然資源などの地域資源を活用したツアーメニューを実施し、訪問者を多く獲得することが非常に重要である。高齢化社会を迎えた状況下で健康が重視され、注目されている今こそ、より多くの地域がヘルス・ツーリズムに関心を抱き、実践すべきである。

(2)エコ・ツーリズム

1997年に採択された京都議定書は、今年から2010年までの5年間に、先進国全体で温室効果ガスの排出量を1990年に比べ5%削減することを義務付けた。各国別の目標もあり、日本は6%削減が国際公約となっている。しかし、2006年度の排出量は逆に1990年に比べ6.4%増えているのが現状である。温室効果ガスの排出量を削減し、温暖化防止を図るには、社会全体の取り組みが欠かせない。また政府の報告では、近年、排出量を押し上げているのはオフィスや家庭部門であるという。国民の意識を改革し、家庭での省エネ対策でどこまで成果を上げられるかが今後この課題を解決する上で重要である。

その課題の解決策の一つとして、自然や歴史文化の体験・学習型観光であるエコ・ツーリズムへの参加が挙げられる。なぜならば豊かな自然体験から得た感動が、日常生活における環境意識を高めることになるからだ。例えば今回のモニターツアーで実施された只見川遊覧船エコツアーでは、家庭の暮らしを支える電気の供給元であり、且つ地球環境に負荷を与えない、循環型の再生可能なクリーンエネルギーとして注目されている水力発電所・宮下ダムや沼沢発電所を始め、大気や水の浄化作用の役割を担う、豊かな土壌を形成する森林などを、只見川の雄大な景色と共に遊覧船で巡った。都会で生活していると森林との繋がりを忘れがちであるが、水道の蛇口をひねると出てくる水のふるさは豊かに育まれた森林なのである。このように私たちが生きていく上で必要な水・酸素・エネルギーを生成し、供給しているのは地方であるので、私たちの暮らしそのものと地域との関わりを具体的に学習できるようなツアーメニューの作成が必要である。但しそれを単に楽しいメニューで終わらせてはいけない。観光型と学習型の中間的性格の、両方の要素を絡ませたものでなければならない。そうすることでエコツアー参加者は、ツアーでの楽しい体験を通して、自然や文化に対する興味が起こり、保護への意識が芽生えることが期待できる。このような意識変化が、ゴミの分別やエネルギーの節約など、日常生活の中での小さな環境保全の行動につながり、また都市住民の地域に対する理解もより深まるようになる。

また、ヘルス・ツーリズムの観点からエコ・ツーリズムを捉えた場合、例えば森林浴では、森の中を散策することによって、心身をリフレッシュし、健康の維持を図るとともに、エコツアーガイドの解説により、地域の魅力や自然と人間の関係など、自然環境について学習することが可能である。この他にもヘルス・ツーリズムと関連のあるエコツアーのメニューとして神社参詣が挙げられる。神社参詣では、地域の伝統文化に直に触れることができる。また神社の整備・保護は、社叢と呼ばれる神社の森や木々で構成される自然景観の保全につながる、といったエコ・ツーリズムの要素が含まれているのはもちろんのこと、何百年、何千年の間、大切に管理されてきた樹木や神木に触れながら、神社特有の厳粛な雰囲気の中を散策することは、精神療養といった精神的安定効果も期待できる。ゆえに神社参詣はヘルス・ツーリズムの要素も絡ませたエコツアーなのである。このようにエコ・ツーリズムは肉体的または精神的安定効果も同時に図るという、ヘルス・ツーリズムの要素を含ませたツアーメニューとして考えることができる。

(3)グリーン・ツーリズム

我が国では農業問題が深刻である。2005年の食料自給率はカロリーベースで39%まで低下しており、これは安価な外国産農産物の消費が一般化したためである。また農業従事者も年々減少しており、2005年では550万人で人口の5%にも満たず、その半数以上は高齢者である。

食育や農業問題が頻繁にとり沙汰される今日、その解決策としてグリーン・ツーリズムは注目を浴びており、各自治体や政府が活動計画への支援を積極的に行う傾向が見られる。これは集落の先行きを不安に思う地域住民にとっても喜ばしい動きである。各支援プロジェクトの対象に選ばれることで資金的に余裕がない地域でも、補助金が行政から支給されるので活動が行いやすくなり、知名度が上がり地域農産物の宣伝効果も期待できる。

新しい取り組みとして総務省、文部科学省、農林水産省の三省連携事業として、学ぶ意欲や自立心、思いやりの心、規範意識などを育み、力強い子どもの成長を支える教育活動として、小学校における農山漁村での長期宿泊体験活動を推進する小学生を対象とした「子ども農山漁村交流プロジェクト—120万人・自然の中での体験活動の推進—」が発案された。今後、全国2万3千校の小学校(1学年120万人を目標)で体験活動を展開することを目指し三省一体となって推進を行う。小学生を対象とすることで農山漁村に継続的に訪れてもらえるだけでなく、子供から家族全体へ情報提供がなされ、参加者が広がることが予想される。グリーン・ツーリズムでの地域住民との交流や農業体験は青少年の健全育成や食育、ストレス社会での疲労を癒すことになり、また体力作りにもなるなど、ヘルス面での効果も十分発揮することが期待される。また、田舎を体験したことで農家が手間暇かけて提供している農産物のありがたさを知り、伝統料理への興味を持ち、国産の食材に関する関心が高まり、国産品の消費の拡大にもつながる。田舎の魅力や価値に対する理解が深まることによって交流人口が増加し二地域居住者や農業従事者が増加する。そして中山間地域でのツーリズムが軌道に乗ることによって新たな雇用が生まれることになる。それによって若者の都会への流出を食い止めることにつながることが期待される。

2. 本研究のまとめ ―今後の課題―

近年、世間では自然回帰の精神に基づくツーリズムへの関心が高まりつつある。都会的な利便性を追い求めてきた人々が、これまで疎かにされていた地方に精神的充足を求めた結果、中山間地域に再び光があたったのである。この風潮に呼応する様に、国や地方自治体はヘルス、エコ、グリーンの各ツーリズムや、それらを複合的に展開するニューツーリズムと呼ばれる形態によって、地域活性化の可能性を模索し始めた。その様な潮流を上手く利用することも地域活性化への一歩には欠かせないが、実際問題としてツーリズムに対する知識や実施へ向けた意識は行政と地域住民の間で未だに大きな開きがある。

これに対し、森ゼミでの活動を通じて、県は地域資源を有効に活用した体験交流型ツーリズムの展開に乗り出し、それと同時に実際に展開を予定している地域への働きかけを行った。

そして今後の課題としてヘルス・ツーリズム・ネットワーク協議会の立ち上げが挙げられる。ツーリズムの継続的な実施に向けた受け入れ組織作りが不可欠となるからである。受け入れる農家や旅館をはじめ、グリーン・ツーリズムには欠かせない組織として商工会議所や農協・役場・NPO 団体などが団結して一つの協議会を組織し、同時に地域全体で協議会同士の連携を深めることが、参加者にとってより魅力的なツーリズムの展開へと繋がる。

次に福島県観光交流局によるアクティブ・ツーリズムの展開が待たれるところである。観光立県を目指す県が新年度から行う組織改編に際し、観光交流局が新たに設けられる。これは観光、県産品振興、空港利活用、交流などについて、縦割り行政を一掃して総合的・機動的に動けるようにした組織である。その中で観光を大切にしつつ自然の中で楽しむアクティブ・ツーリズムの展開も期待される。

また、実際に取り組みを行う地域では各地域間が連携を図りつつ、今後とも定期的な各種説明会や勉強会、視察などを行い、人的資源を構成する住民達のモチベーションを高めるとともに、より質の高いツーリズムを展開するために展開能力の継続的レベルアップを図る必要がある。

<<参考文献>>

- 石原 照敏・吉兼 秀夫・安福 恵美子 『新しい観光と地域社会』 / 古今書院 2000
- 岡本知弘・川瀬光義・鈴木誠・富樫幸一 『国際化時代の地域経済学』 / 有斐閣アルマ 1997
- 岡本伸之 『観光学入門 ポスト・マス・ツーリズムも観光学』 / 有斐閣アルマ 2001
- 木村麻紀 『ロハス・ワールドレポート-人と環境を大切に作る生き方-』 / 木楽舎 2006
- ジョン・アーリ 『観光のまなざし 現代社会におけるレジャーと観光』 / 法政大学出版局 1995
- 多方一成 『スローライフ、スローフードとグリーンツーリズム』 / 東海大学出版会 1995
- 豊川久美子 『ドイツの農村政策と農家民宿』 / 農林統計協会 2007
- 前田勇 『21世紀の観光学 -展望と課題-』 / 学文社 2003
- 日本温泉科学会 『新型コロナシリーズ温泉学入門-温泉への誘い』 / コロナ社 2005
- 山村順次 『観光地域社会の構築』 / 同文館出版 2006
- 山崎光博 『ドイツのグリーンツーリズム』 / 農業統計協会 2005
- 井上和衛 『欧州連合[EU]の農村開発政策』 / 筑波書房 1999
- ランドジャポニカ 『日本地名大百科』 / 小学館 1996

<<参考資料>>

- 『只見川流域町村の地域資源を活用した中山間地域活性化モデル』 / 2006年度森ゼミ卒業研究論文
- 『ヘルス・ツーリズム連携事業の概要』 / 森 文雄 (会津大学短期大学部教授)
- 柳津町久保田地域現地説明会資料 『棚田等中山間傾斜地を活用したグリーン・ツーリズムによる地域活性化について -農林業体験を通じた都市農村交流の実現に向けて-』 / 森研究室 (会津大学短期大学部)
- 『子ども農産漁村交流プロジェクト -120万人・自然の中での体験活動の推進-』 / 総務省,文部科学省,農林水産省

<<参照 HP>>

- 昭和村役場ホームページ (<http://www.vill.showa.fukushima.jp/>)
- 金山町役場ホームページ (<http://www.town.kaneyama.fukushima.jp/>)
- 三島町役場ホームページ (<http://www.town.mishima.fukushima.jp/>)
- 柳津町役場ホームページ (<http://www.town.yanaizu.fukushima.jp/>)
- 西会津町役場ホームページ (<http://www.town.nishiaizu.fukushima.jp/>)
- 喜多方市役所ホームページ (<http://www.city.kitakata.fukushima.jp/>)
- ふくしま統計情報 (<http://www.pref.fukushima.jp/toukei/>)
- 飯豊とそばの里山都 福島県喜多方市観光協会 (<http://www.town.yamato.fukushima.jp/>)
- 福島観光情報 (<http://www.fun.ne.jp/utsukushima/munilist.htm>)
- 喜多方地方(会津西北部)の観光ガイド (<http://kitakata.info/arata/town/index.htm>)
- 国政モニターお答えします (<http://www8.cao.go.jp/monitor/answer/>)
- 少子高齢化対策グループ (<http://www.pref.fukushima.jp/shoushi/syoushi-kourei-index.htm>)
- 日本エコ・ツーリズム協会 (<http://www.ecotourism.gr.jp/>)
- エコ・ツーリズムのすすめ (<http://www.try-ectourism.com/>)
- 環境省へようこそ! (<http://www.env.go.jp/>)
- 水力のページ (<http://www.enecho.meti.go.jp/hydraulic/>)
- 森林は緑のダム (<http://www.jafta.or.jp/kids/junior/q-box1.html>)
- ゆったりくつろぐ湯と森の里”東鳴子温泉 (<http://www.naruko.gr.jp/>)
- かけながし 100%天然温泉 (<http://www.town.kaneyama.fukushima.jp/>)
- メールマガジン「学習リゾート・うつくしまふくしま」
(http://www.pref.fukushima.jp/kanko/kyoiku/magazine/backno/magazine_backno27.html)
- 喜多方グリーン・ツーリズム 田舎体験 (<http://www.kitakata-gt.jp/>)
- 「新しい観光と地域社会」著者 石原 照敏・吉兼 秀夫・安福 恵美子
(www.env.go.jp/council/22eco/y220-01/mat_03.pdf)
- エコ・ツーリズムに関する国内外の取り組みについて (<http://npo.picchio.jp/management/04-1.html>)
- NPO 法人ピッキオ (<http://www.dc.ogb.go.jp/nakagusukuwankou/pdf/20040113/03-3sankou.pdf>)
- 西表島-イリオモテドットコム (<http://www.iriomote.com/home.html>)
- 「本宮大社・速玉神社」を巡る熊野川の旅 (http://eco.goo.ne.jp/nature/taiken/heritage/03_01.html)
- 安心院町グリーンツーリズム研究会 HP (<http://www3.coara.or.jp/~ajimu/mokuji.html>)
- 歳時記の郷 奥会津 (http://www.okuaizu.net/travel_01.shtml)
- 厚生労働省・日本生活習慣病予防協会 (<http://www.seikatsusyukanbyo.com/index.php>)
- 株式会社 NTT データ経営研究所 (<http://www.keieiken.co.jp/monthly/repo0404/04041-3.html>)
- フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia)』 (<http://ja.wikipedia.org/wiki/Wiki>)
- 温泉の効果、禁忌症と適応症 (<http://www.pref.ibaraki.jp/bukyoku/hoken/yakumu/onsen/kounou.htm>)
- 温泉郷 (<http://www.onsenkyo.com/program/onsen.html>)

